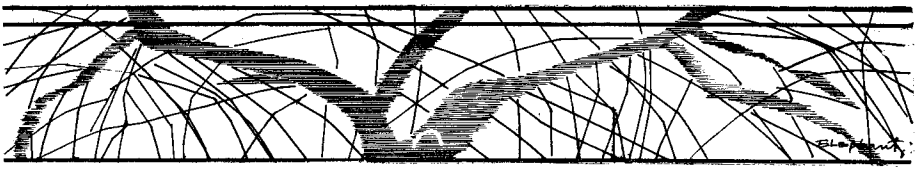
聖徒の道

第五巻第八号 一九五八年三月十七日第三種郵便物認可（毎月一回一日発行）
一九六一年八月一日発行

末日聖徒イエス・キリスト教会



もくじ

予言者のことば……「目に入るわずかなもの」…大管長　デビド・O・マッケイ…四二六

伝道部長メッセージ……全伝道部長会ソルト・レーク市で開かる
……ポール・C・アンドラス…四二九

モルモンの教義……「証人」の法則……佐藤龍猪…四三一

質問への答……「祈りと断食」……ジョセフ・フィールディング・スミス…四三五

随筆……金華山沖の捕鯨船……渡部正雄…四三九

擬似聖文と旧約聖書……プレストン・ロビンソン…四四三

共に考えよう……平和を作り出す……紙谷富保…四四八

伝道本部だより……四五〇

地方部大会から……家庭に於ける宗教の実践……大谷幸…四五二

支部だより……お見合から芽ばえたモルモン家庭……札幌支部…四五四

ヤンガージェネレーション……四五五

系図……日本の基礎民族は希伯来(ヘブライ)選民の正裔(ティ)なり……渡部正雄…四六〇

一年をかえりみて……青木さだ…四六五

MIAエンサイン—ローレル教科課程「生きる」九月用—……四六七

子供日曜学校ガイド—九月用—……四七二

日曜学校ガイド—九月用—……四七四

アロン神権……ブランチティーチングレッスン—九月用—……四七八

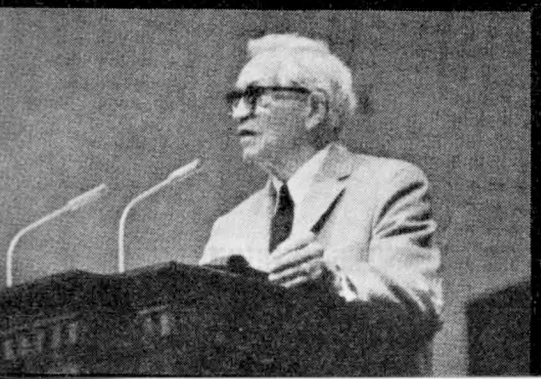
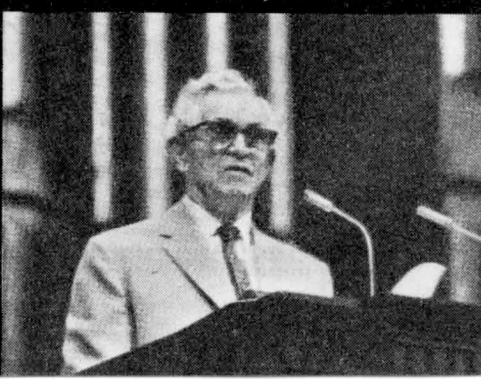
MIAリーダー—九月用—……四七九

末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粋……ジョセフ・フィールディング・スミス…四八三

九月練習の讃美歌……四八八

1961年8月号

聖徒の道

予言者のことば

「目に入るわずかなもの」

大管長　デビド・O・マッケイ

ユタ州ウィンタ郡ヴァーナルから二十数キロ行ったところに一つの丘がある。人々は何年という間その上を行き来していたが、何らふつうとちがったところを認めなかった。その丘には、同じくらいの大きさの大きな岩が二つあったが、開拓の仕事を一心にやっていた人々の目にはただの岩にしかうつらなかった。

ところがある日、カーネギー研究所から来た一人の男が同じ丘の上を歩いて行ったが、その丘の岩石に目をつけた。そして、こういう岩石の層の中には、大昔地球上のいたるところを歩きまわっていた巨大な動物の化石が含まれていることがあると思った。

それまで農民、牧畜業者、開拓者などにとってただの岩にすぎなかったものは

熟練した科学者によって、大昔に死に絶えた巨大な動物の二つの脊椎骨の化石であることがわかった。やがてこの発見者が人々の力を得てこの化石を注意して発掘したところ、長さ約二十メートル高さ約十メートルにおよぶ「恐竜」の姿が、興味と驚ろきの目を以て見守っている、その丘のまわりの住民の前にあらわれた

この科学者はその二つの岩が示しているいろいろの徴候に従って、これが巨大な化石であることを知り、大きな努力を傾け多大の費用をかけた末、ついに当時最も立派な化石の標本を発掘したのであった。

千九百十五年この区域は恐竜の国家的遺跡と呼ばれるようになり、政府はたまたま見にくる人たちが、これらの「恐竜」やそのほかいろいろな爬行動物の最も興味のある化石を、もっと真面目な科学者と共に研究しに来るよう、ここを特別な区域に指定した。今日この遺跡は、ユタの東部とコロラドの西部にわたり約八十万ヘクタールの広さにおよんでいる。

これと同じように、人間はこの世をわたるとき、より高い霊界をときどきちらりと見ることがあっても、不幸なことに人間は一目見ることで満足をして、霊の世界にある美と栄光とをあらわすのに必要な努力を傾けないのである。世の常の人々は、盲目的にそれを感じるだけである。この世の要求に追い立てられて、徴候すら、目に入らない人たちもある。

人生の勝負事は人を夢中にさせる、それであるから人が勝負事に加わるときには勝たんがために加わるのである。従って、勝つことが人生の目的の全部となるたとえば、商人はどのようなことをしても成功したいと思っている。政治家（ル

ビに注意）は自己の野心を満足させるために政界に入り、国家社会に奉仕する働きを無視している。

このように人間は、人生の中にある高尚な事物を見る目を失っている。俗世の事は人の心の中にゆらいでいる霊の光を圧倒してしまっている。

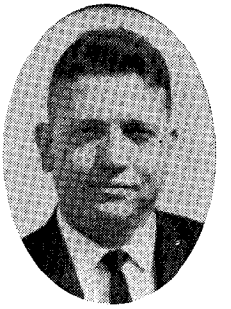
世の中には耽(たん)できと情欲の狐火のあとを追いかけて幻影にだまされた人となる者もある。このようにして、彼らはじきに卑屈な人々になり始める。

「世の中はわれらにとって堪え難い
やっともうけてすぐに使ってしまう
われらは精力をすりへらしている。
自分のものである自然の中に
ほとんど何ものも見ていない。
感情を人手にわたしてしまった、
欲に目のくらんだ贈りものさ」

と、ワーヅワースはその詩の中で言っている。

人の行く道は、勤勉に準備をしている人々のために最も明るく照らされている開拓者、農民、牧畜業者たちは、ウィンタ郡を開拓する準備をしていた。あの科学者はまた別のことのために準備をしていた。私たちが皆自分の行く道の側にあるしるし、すなわち、この世の喜びと次の世の豊かな酬いとを得させるしるしを認めるように生活をすることを心からねがう次第である。

《伝道部長メッセージ》



全伝道部長研究会ソルト・レーク市で開かる

ポール・C・アンドラス

六月の二十六日から七月の八日まで、全世界にまたがる伝道部の各伝道部長の研究会がソルトレーク市で開かれます。このような研究会が開かれるということは私たちの教会の歴史あって始めてのことでありますが、これから一年おきに、全世界にまたがる伝道部の各伝道部長の研究会を開く計画が立てられています。

私はこの研究会に出席をするように招かれましたからアンドラス姉妹と私とは二人の子供ジェイとイヴァとをつれて今晩（六月二十一日）アメリカに向けて出発いたします。ところで、解任されようとしている伝道部長はこの会に招かれませんので、私がこの会へ出るか出ないかは暫らくの間はっきりわかりませんでした。しかし、この度私が出るように招かれましたことはもう少々日本にいることを許されるということになりますので、アンドラス姉妹と私とは大そう喜んでおります。

私の考えを申しますと、この全世界にまたがる伝道部の各伝道部長の研究会が始めて開かれるということは、私たちの教会の各伝道部の急速な成長に一つの新しい時代を劃するのでありますから非常に大きな意味があるのであります。

私たちの教会の各伝道部に於ける進歩の新しい時代は、まことに千九百六十年中に開け始めました。千九百五十九年に各伝道部で改宗者のバプテスマが二三、〇二六あったのに比べて、千九百六十年には改宗者のバプテスマが三八、二四九ありました。ところで、千九百六十一年の一月から四月までの間に各伝道部で改宗者のバプテスマが計一九、八六〇ありました。その上増加の割合が毎月上昇しておりますから、本年度の私たちの教会の各伝道部に於ける改宗者のバプテスマ数は七〇、〇〇〇か八〇、〇〇〇の間になると思われます。今度開かれる各伝道部長の研究会は、この新しい進歩の波に一層の推進力を加えますから、私たちの教会の各伝道部だけでおそらく一〇〇、〇〇〇以上の改宗者のバプテスマが来年中に行われることでありましょう。

本当に、神のまことの教会は、山から切り出された石のようにころがって行って、間もなく全地に満ちるにちがいありません。

アンドラス姉妹と私とは七月の十二日に日本へかえってくるつもりでありますから、この全世界にまたがる伝道部の各伝道部長の研究会については、九月号の伝道部長メッセージで報告いたします。

「証人」の法則（二十七）

佐藤龍猪

「すべての事がらは、ふたりか三人の証人の証言によって確定する」
コリント後書十三〇一

一、「証人の法則」（The Law of witnesses）

主なる神が新しい啓示をその民に下したもうときには、古来常にこの法則によって与えたもうている。すなわち「証人」の法則は、昔から一定不変の神聖な法則であって、主が「神権時代」を設定したもうた時はいつでも常に一人以上の「証し人」となる「証人」があった。

旧約聖書には、主なる神がこの法則（律法）をイスラエル人にお与えになったことを誌して「あなたの神、主が賜わる町で、あなたがたのうちに、もし男子または女子があなたの神、主の前に悪事をおこなって、契約にそむき、行って他の神々に仕え、それを拝み、私の禁じる、日や月やその他の天の万象を拝むことがあり、そのことを知らせる者があって、あなたがそれを聞くならば、あなたはそれをよく調べなければならない。そしてその事が真実であり、そのような憎むべきことが確かにイスラエルのうちに行われていたならば、あなたはその悪事を行った男子または女子を町の門にひき出し、その男子または女子を石で撃ち殺さなければならない。ふたりの証人または三人の証人の証言によって殺すべき者を殺さなければならない。ただひとりの証人の証言によって殺してはならない」（申命記十七〇二十六）。

「どんな不正であれ、どんなとがであれ、すべての人の犯す罪は、ただひとりの証人によって定めてはならない。ふたりの証人の証言により、または三人の証人の証言によってその事を定めなければならない」（申命記十九〇十五）と言ってある。

以上は、もちろん一般の法律にもとずいた個人個人の裁判について言ってあることであるが、この法則は、単に殺されるか殺されないかの裁判に適用されるばかりでなくあらゆる重な事柄にも適用される。

主が弟子たちに教えをお説きになった時にも「もしあなたの兄弟が罪を犯すなら、行って、かれとふたりだけの所で忠告しなさい。もし聞いてくれたら、あなたの兄弟を得たことになる。もし聞いてくれないなら、ほかにひとりふたりを一しょにつれて行きなさい。それはふたりまたは三人の証人の口によって、すべてのことがらが確かめられるからである」（マタイ伝八〇十五—十六）とお言いになっている。

主が大洪水を以て地球を清めると決意なさったとき、主はノアを召して、悪に満ちた住民に宣べ伝えるため、ノア独りを遣わしたもうたと普通思われている。「ノアは百二十年間宣べ伝えたが、ノアのほかにも証人があって同じことを宣べ伝えたことについては何も言われていない」と言う人もある。しかし、証詞をするに当ってノアは独りでなかった。「高価なる真珠」の中に「エノクの息子メッセラは、主がエノクに

為したまいし誓約の成就せんため取り去られざりき。主はエノクと、誠にノアは彼の子孫より出ずと誓約したまいし故なり。メツセラ予言して曰く、わが子孫より（ノアより）すべてこの世の王国出で来るべし、と」と述べてある（「高価なる真珠」モーセの書八〇二―三参照）。

ノアの祖父メツセラは義人で予言者であった。「啓示のみたま」によってノアの時代に大洪水があることを先見していた。その上、メツセラは大洪水の年まで生きていてその年に亡くなった。従って、このメツセラは曲れる世の人々に悔改めを叫び、来らんとする大洪水について警告を発していたにちがいない。また、ノアの父ラメクも義人であって、大洪水の五年前に世を去っている。このラメクもまた、その父やその子と同様、曲れる世の人々に向って悔改めを宣べ伝えたことは当然である（「救いの教義」第一巻二〇四頁参照）。

アブラハムの時代には、「アブラハムの神権の時代」の鍵を持っていたエライヤスがおり、またアブラハムを祝福したメルケゼデクも住んでいた。この二人は主がアブラハムと結びたもうた誓約のことをよく知っていたにちがいない（「教義と聖約」八十四〇十四、百十〇十二、ジョセフ・スミス改訳聖書、創世記十五〇三十六―四十参照）。

また、モーセがイスラエル人をエジプトから引き出す召しを受けるに当り、モーセは始めエジプトから逃れ、ミデヤンの野へ行って祭司エテロの羊の群を飼う者となった。その群を導いて荒野の奥にある神の山ホレブに来たとき、主なる神は「燃えるしば」の中からモーセを呼んで「イスラエルの人々をエジプトから導き出す者」として召したもうた（出エジプト記三〇一―十参照）。主はエジプトのパロに証詞をするためにモーセ独りをお遣わしにならなかった。主はモーセを助けるために、モーセの兄弟アロンも共にお遣わしになった。モーセは「ああ主よ、わたしは以前にもまたあなたが、しもべに語られてから後も、言葉の人ではありません。わたしは口も重く、舌も重いのです」と言ったが、主は「あなたの兄弟レビ人のアロンがいるではないか。わたしは彼が言葉にすぐれているのを知っている。見よ、彼はあなたに会おうとして出てきている。……彼はあなたに代って民に語るであろう。彼はあなたの口となり、あなたは彼のために神に代るであろう」と言って、アロンをモーセの代弁者とし、またモーセと共にパロに向って証詞をする者としたもうた（出エジプト記四〇十―十六参照）。

イエス・キリストが変貌の山へペテロ、ヤコブとヤコブの兄弟ヨハネとをつれてお行きになったのは何のためであるか。イエスはこの時一人以上の「証人」がいることを欲したもうたからである（マタイ伝十七〇一―三、「救いの教義」第一巻二〇五頁参照）。

二、ジョセフ・スミスと「証人」の法則

天が開けて「鍵」が回復されなくてはならなかったときにはいつも二人の「証人」があった。千八百三十六年四月の三日にカートランドの神殿で、モーセが現われ、エライヤスが現われ、エライジャが現われて「神権時代の鍵」が授けられたとき、これを受けたのはジョセフ・スミスひとりではなくて、ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリの二人であった。またバプテスマのヨハネが現われてアロン神権を授けたとき

にも、ペテロ、ヤコブ、ヨハネが現われてメルケゼデク神権を授けたときにも、ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリの二人がこれを受けた。これは「もし、わたしが自分自身についてあかしをするならば、わたしのあかしはほんとうではない」（ヨハネ伝五〇三十一）と言ってある通りであるからである。もしもジョセフ・スミスが、「私は証詞をする」と言っても、独りであったなら、その「証詞」が真実であるとは認められないであろう。その「証詞」が有効であるためには二人の「証人」が必要であった。

千八百三十五年十二月五日、予言者ジョセフ・スミスは「世の罪のため十字架にかかりたもうたるイエス・キリストの御名により、われわが手を汝の頭に按き、汝を末日聖徒の教会に於ける、いと高き聖なる神権の大管長補佐（Assistant President）に聖任す」と言って、オリヴァ・カウドリを大管長補佐に按手聖任し、教会管理に当って、大管長である予言者ジョセフ・スミスと権能の鍵を共同で保有する者とした。こうして、オリヴァ・カウドリは天が開かれる度毎に、予言者ジョセフ・スミスと同じ権能の鍵を受けて「時満ちたる神権時代」に於ける第二の「証し人」となった。

しかしながら、後になってオリヴァ・カウドリは教会に叛いて正会員の資格を失い一時破門された状態に在ったので神権の権能を失った。あとから再び会員になることを許されたけれども、以前に持っていた権能の鍵は再び与えられなかった。

オリヴァ・カウドリが教会に叛いてその地位を失なうと、「証人の法則」が満され、「証人の証詞」がつずくよう、予言者の兄ハイラム・スミスは予言者を通じて下された啓示によって召され、前にオリヴァ・カウドリが保有していた地位と神権の権能とを授けられた。このようにしてハイラム・スミスはその生得権によって「教会の大祝福師」になったばかりでなく、また次のような祝福も受けた。

「されば今後われ彼を任命して、わが僕ジョセフと同様にわが教会の予言者、聖見者、啓示を受くる者となす。こは彼がまたわが僕ジョセフと一致して働くためにして、かくてわが僕ジョセフの助言を受け、またジョセフは彼に諸々の鍵を示さん。この鍵によりて彼は願わばすなわち受けて、嘗てわが僕なりしオリヴァ・カウドリに与えられると同じ祝福と栄と誉と神権の賜とをその頭に受けん。こはわが僕ハイラムのわがこれより彼に示すところを証するためにして、かくしてその名は子孫代々永遠に覚えられて誉とならん」（「教義と聖約」百二十四〇九十四―九十六参照）。

千八百四十四年六月二十七日、ハイラム・スミスは予言者ジョセフ・スミスと共にイリノイ州カーセージに於て殉教し、彼らの証詞を「己が血を以て結び固めた」。神の「証し人」として殉教し、その証詞を血を以て結び固めることは、ジョセフ・スミスに必要であったと同様にハイラム・スミスにも必要であった。

三、モルモン経の見証者

オリヴァ・カウドリ、デビッド・ホイトマー、マーテン・ハリスの三人は、モルモン経が真実であることを証しする見証者として選ばれ、「神の御声が明らかに告げたもう」声を聞き、「神の使」の前で「記録の誌してある版を見」、「その版の上に刻んである文字を見た」（モルモン経「日本語版」十三頁参照）。

しかしながら、これらの見証者は後になって三人とも教会を去った。マーテン・ハリスを除いて他の二人は教会を破門された。もしこれら三人の見証者が、ジョセフ・スミスと腹を合せて偽の証言を行い世の人々を欺むいていたなら、教会を去ってから、前の証言を取り消したにちがいなかろうが、三人とも自己の証言を一生涯変えなかった。

デビッド・ホイットマーは、自分が前の証言をひるがえしたということを或る人が言ったというので、千八百八十一年にはっきりと証言をして「私は三人の見証者の一人として、モルモン経に長い間公けにされてきている証詞のどのような部分でもかって否定したことはない」、「私を一番よく知っている人たちは、私がいつもその証詞を守って変えなかったことを知っているにちがいない」という言葉を公けにしている。そして、その証言の発表文の後には有力な市民たちの署名がしてある。

マーテン・ハリスは、破門はされなかったが教会を離れて英国へ渡りモルモン経を宣べ伝えていた。後に教会の兄弟たちが彼を探し求めて行き、彼を見つけてはげましアメリカへ連れ帰った。マーテン・ハリスはユタへ移り住み、ユタの開拓地の人々に自分の証詞の真実であることをくり返し説き聞かせた。そして千八百七十五年九十二才の高齢で世を去った。

オリヴァ・カウドリは一旦教会から破門されたが、聖徒たちがノーヴーから退去して荒野の中に在り、教会が最悪の事態に直面して前途に何らの希望もなかったとき、ケーンスヴィルへやってきて再び教会へ入れてほしいと申し出た。オリヴァ・カウドリは教会へ受け入れられたとき、彼はモルモン経が真実であることを証言している。

（「救いの教義」第一巻二二七頁、「末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粋」「英文」四六九頁参照。）

質問への答

祈りと断食

解答者　ジョセフ・フィールディング・スミス長老
（12使徒会会長）

質問　祈りと断食の律法とは、いつ頃からあるものでしょうか。祈りと断食は、救主の時代に行われていたということをわれわれは知っています。古代イスラエルにおいても、このことは律法であったのか。この律法は、この福音経倫時代において、いつごろ紹介され、木曜日に、いつまたなぜ変ったのか。これらの問題について討論し合いましたが、意見がそれぞれちがってましたから、はっきりした答えをいただきたいと思います。

答　断食は、時のはじめより現在まで伝えられて来ているところの宗教上の習慣であり、いつも祈りと密接な関係をもっている。古代には数知れない習慣や儀式があったが、それらに関する知識は極めて一般化された。だから、それらの起原は古代において失われてしまった。従ってわれわれは、断食に関する最初の誡命がいつ、またどこであたえられたのか知ることができない。最古代においてもこの律法は一般化され、普通のものであり、旧約聖書中には、この律法は神の真実の崇拝者たちの間ばかりでなく、異教徒の間でも施行されていたということを示す数多くのできごとが見出される。これらすべてのきでごとは、断食の最古のものを示し、われわれは、それがアダムに啓示されたのだと仮定することができる。

○・・断食と祈りは主の命令による

われわれは、断食と祈りが主によって命ぜられたものであるということをイザヤの書きしるした著作物から理解することができる。

イスラエル人は、断食と祈りに関する教義を曲解、悪用したため、イザヤはイスラエル人を譴責（けんせき）し、そして彼らを忠実な従順の道につれもどそうと努力している。彼の言葉と誡命は左のようである

「大いに呼ばわって声を惜しむな。あなたの声をラッパのように

あげ、わが民にそのとがを告げ、ヤコブの家にその罪を告げ示せ。彼らは日々わたしを尋ねもとめ、義を行い、神のおきてを捨てない国民のように、わが道を知ることを喜ぶ。彼らは正しいさばきをわたしに求め、神に近づくことを喜ぶ。彼らは言う『われわれが断食したのになぜ、ごらんにならないのか。われわれがおのれを苦しめたのに、なぜ、ごぞんじないのか』と、見よ、あなたがたの断食の日には、おのが楽しみを求め、その働き人をことごとくしえたげる。見よ、あなたがたの断食するのは、ただ争いと、いさかいのため、また悪のこぶしをもって人を打ったためだ。きょうあなたがたのなす断食は、その声を上に聞えさせるものではない。このようなものは、わたしの選ぶ断食であろうか。人がおのれを苦しめる月であろうか。そのこうべを葦のように伏せ、荒布と灰とをその下に敷くことであろうか。

あなたはこれを断食ととなえ、主に受けいれられる日と、となえるであろうか。

わたしが選ぶところの断食は、悪のなわをほどき、くびきのひもを解きしえたげられる者を放ち去らせ、すべてのくびきを折るなどの事ではないか。また飢えよ者に、あなたのパンを分け与え、さすらえる貧しい者を、あなたの家に入れ、裸の者を見て、これに着せ、自分の骨肉に身を隠さないなどの事ではないか」。（イザヤ書　第五十八章一節～七節）

ここに、イザヤははっきりと断食の目的を明らかにしている。断食は、主の御前で、悔ゆる精神とへり下った心とをもって施行されたのであった。悪はすて去られ、飢えたる者にパンを分けあたえ、裸なるものをみて、これに着せ、しいたげられたものを解き放つという聖約と共に、祈願がささげられた。もしこのことがおこなわれるなら、「そうすれば、あなたの光が暁のようにあらわれ出て、あなたは、すみかかにいやされ、あなたの義はあなたの前に行き、主の栄光はあなたのしんがりとなる」。（イザヤ書五十八章八節）と主は仰せられた。しかしながら、イスラエル人は、断食の教義を悪用したため、イザヤと主の譴責を受けたのである。

○・・旧約聖書に二つの例がある

旧約聖書の時代を通じ、われわれは、断食と祈りが遵守されたという証明を見出す。その中でも二つの最も良い例は、ここでいう価値のあるものである。一つはエステル書中の物語であり、この話はすべての人によく知られたものである。簡単に云うなら、ユダヤ人の敵ハマンが、王国内にいるすべてのユダヤ人は滅亡するということを王様に強制布告させたという話である。法律とは、決して廃止され得ないものであった。女王エステルは、すべてのユダヤ人に次のような請願をしている。

「あなたは行ってスサにいるすべてのユダヤ人を集め、わたしのために断食してください。三日のあいだ夜も昼も食い飲みしてはなりません。わたしとわたしの侍女たちも同様に断食しましょう。そしてわたしは法律にそむくことですが主のもとへ行きます。わたしがもし死なねばならないのなら、死にます」

（エステル書四章十六節）

王の前にさしだされた女王の請願は、実を結び、そして王はその布告を変更することができなかったけれども、ユダヤ人たちは、彼を襲おうとする諸国、諸州のすべての武装した民に対抗して、その妻子と共に滅ぼし、殺し、絶やし、そしてその貨財を奪い取ること

を許したのである。

断食に関するもう一つの例はダニエル書に書かれている。悪しき人々がダニエルに対して謀略をめぐらし、変えられぬ律法に従って彼をししの穴に投げ入れさせたが王が彼を救い出すよう願ったとき、彼ら悪い人たちは、次のよういった。

「時にその人々は、また王のもとに集まってきて、王に言った、「王よ、メデアとペルシャの法律によれば王の立てた禁令、またはおきては変えることのできないものであることを、ご承知ください」

（ダニエル書六章十五節）

王は、宮殿に帰って、その夜は食をとらず（断食をした）また、そばめたちを召し寄せず、全く眠ることもしなかった。（ダニエル書十章一節～三節）

○・・新約聖書にもその例が多い

新約聖書にも、主よりの祝福が欠くべからざる当を得たものであるときおこなわれた祈りを断食に関して、多く参照すべき事柄がある。この点に関しては、山上の垂訓中に教えられてある救主の誡命と悪鬼にとりつかれた一人の若者がいやされたという話を参照するのが良い。山上において、救主は次のように申された。

「また断食をする時には、偽善者がするように、陰気な顔つきをするな。彼らは断食をしていることを人に見せようとして、自分の顔を見苦しくするのである。よく言っておくが、彼らはその報いを受けてしまっている。あなたがたらは断食をする時には自分の頭に油を塗り顔を洗いなさい。それは断食をしていることが人に知れないで隠れた所においでになるあなたの父に知られるためである。すると、隠れた事を見ておられるあなたの父は、報いて下さるであろう。（マタイ伝十七章二）

もう一人の例は、弟子たちのいやすことのできなかった若者から悪鬼がおいだされたという話である。弟子たちは、主になぜ自分たちはこの男をいやすことができなかったのであろうかとたずねた。主は、それはお前たちの信仰が足りないからだ、もし信仰があれば、山を動かすことも可能となるのだと仰せになり、次の御言葉をつけ加えられた。

「しかし、このたぐいは、祈と断食とによらなければ、追い出すことはできない」（マタイ伝六章二十一節）

○・・ブリガム・ヤング大管長の証詞

この福音経倫時代における祈りと断食は、初代より繰り返されて来たものである。教会の組織された時より、断食の原則と祈りの精神とは、主の誡命であった。（教義と聖約五十九章八節～十三節。八十八章七十六節～百十九節を参照）月に定められ日を選定することに関して、一八六七年十二月八日ソートレーク市の旧タバナクルで説教したブリガムヤング大管長の証詞がある。

「御存知の通り、私たちは毎月の第一木曜日を断食の日としている。この日の起原について知っておられる方は、どれ位おられるか。十分の一が支払われる前、貧乏人たちは寄附金によって支えられていた。

彼らは、カートランドにいる予言者ジョセフ・スミスのところへ来て、援助をこんがんした。この時、スミスは、断食日を決定すべきであると云った。断食日を現在あるように一ヶ月に一回行い、その日に食べるすべてのもの――粉類、肉類、バター、果実等を断食会に持参して貧乏人の世話役である人たちにそれらを手渡すのであ

った。今われわれがこのことを忠実に行うなら、貧乏人たちは、必要とする粉、バター、チーズ、肉、砂糖等にことかくことがあろうか。否である。

恐らくわれわれの間に見受けられる貧乏人がこれら集められたすべてのものを消費するには、あまりに多すぎるほどであるかも知れない。この方針に従い、かつ貧しい兄弟姉妹がこれまで受けて来た以上の援助を提供することは神の摂理である。このことを新聞紙上に公表しようではないか。そして毎月の第一木曜日は断食日であり夫、妻、子供、召使のその日に食べるすべての食物を貧乏人たちの生計上の助けとしていただくために教会の監督に手渡すべきであるということを人々に知らせよう。私も他の人と同ように私の分前を貧乏人たちに喜んであたえています。そして私のワード部に貧乏人が一人もいなくなったら、貧乏人のいる他のワードを喜んで分担しようとしています。部屋がなくて困っている姉妹たちに部屋が提供され、彼女たちが喜びにあふれているのを目のあたりに見れば、われわれは何とすばらしい平和と平安の気持を感じ、喜びと平和とを心に見出すことであろうか。監督は、教師を通じ、できうるワードのすべての家庭人に断食日に消費するものを貧乏人に寄附するよう教えさせるべきである。

木曜日に断食会を開催する習慣は、ノーヴーにおいて続けられ、また教会の会員たちがロッキー山脈のふもとに到着した後もこの習慣は維持された。私は、今でもある種の事業を営む家々が断食日に開鎖され、その門戸に「断食日のため休み」と札をぶらさげていたのを思い出すことができる。この当時の人たちは、断食会出席に極めて忠実で、二時間（またはそれ以上）のこの集会の終るまで喜んでそこにとどまっていた。

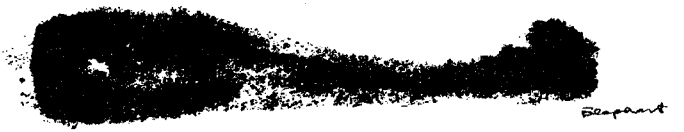
○・・断食日が日曜日になったわけ

第一木曜日から日曜日に断食日が移行されたのは、次のようであった。後になって十二使徒に選ばれたハイラムM・スミスは、一八九六年英国のニューカッスルで宣教師として働いていた。この英国では、断食会の行われる第一木曜日がやって来ると、教会の人々は、仕事を途中から休まなければならなかったし、またそれは月の給与に大いに響いた。これらの人たちの幾人かは炭坑で働いていた。彼らは炭坑から出て来るとまず家に帰り、入浴し、そして衣服を変えねばならなかった。これは時間ばかりでなく、俸給の損失でもあった。

ハクラムは、自分の父であるジョセフ・F・スミスにこのことを手紙で知らせ、このようなな状態においてなぜ断食日を木曜日にして日曜日にすることができないかとたずねた。父のスミスはこの手紙を管長会及び十二使徒会の会合へ持参してそこに提出した。次に示すのは、一八九六年十一月五日に開催された会合の記録から抜粋したものである。

「ジョセフ・F・スミス大管長は、断食会の問題を紹介して断食日を毎月の日曜日に移行することが恐らくもっと効果的であろうという提案をした。このことはジョージ・Q・キャノンによって確認され、他の兄弟たちがこの問題に就いて語った後、毎月第一日曜日に行われているタバナクルのサーヴィスは廃止され、ソートレーク市のみならず、他のワードの人たちは二時におのおの集会場に集って断食会を施行すべきであるということが決議された」。

残念ながら、断食会の時間が大がいのステーキ部やワード部においてもっと早い時間に変えられてしまったが、これは霊性と断食の遵守の欠かんをもたらした。



金華山沖の捕鯨船

渡部正雄

私がこの教会に改宗する以前、今から十四年前のある夏の安息日に私はメソジストの宣教師のバイブルクラスで、

〝ヨナが三日三夜、大魚の腹の中に在りしごとく、人の子も三日三夜、地の中に在るべきなり〟

と言う聖句を学んで始めてヨナの物語りを知り、また創世記の始めに神が天地をつくりたまいし後、五日目に始めて生物をつくられた時先づ巨いなる魚（英文ではグレート・ホエール）をつくられたがこれは鯨であることを知って一度、ほんものの鯨を見てみたいものだと思った。

その翌日、私がロシヤ語を教えていた東北軍政府経済課の一士官から、今度捕鯨船の視察に行くことになったが通訳として同乗してくれないかと言う電話がかかった。私は〝求めよさらば与えられん〟の聖句を知っていたがこんなに早く実現しようとは全く驚いてしまった。ともあれ早速上司の許しをもらって、その翌日にはその士官及び二人の米兵と共に牡鹿半島を数時間ドライブして夕方には有名な世界的捕鯨港、鮎川港内に碇泊して

いる。大洋捕鯨（皆さんおなじみのホエールズ）のキャッチャー・ボート（捕鯨船三百五十トン余り）の船上の人となっていた。

この捕鯨船の給油を軍政府が援助している関係もあり、私たち一行は特別扱いでわざわざ船長室を明けて提供してくれた。

船首に据え付けられた捕鯨砲と、ものものしい、もりを見て幼い頃、小学校の国語の読本で学んだ、泳いでいてふかに食われそうになった我が子を見つけて、一発のもとにそのふかを射止めた名砲手のもりもこのようなもりであったのかと思った。

迫る夕闇とともに船は汽笛を後に勇ましく波を蹴って港を出た。明くれば早や母国の影は消えて一望千里の大海原である。

翌二日目の朝は船はすでに二百数十海哩の沖、捕鯨圏内に突入し、船長を陣頭指揮に、数名の船員は高いマストの上にのぼって必死の眼を見張っている。遙か水平線の彼方に上る、しぶきで鯨を発見するとのこと、そして真先に見つけた者は、その鯨がたとえ、とれなくとも見つけただけで千円近くの金をもらえるのだそうだ。

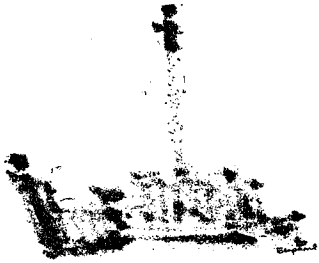
しかし彼らの血眼の努力も空しく、第一日目は海の王者、巨鯨はその片鱗をも見せなかった。その次の日も、どうしたわけか、船員一同の努力と我々の期待も空しく、まさか海の王者が米士官を恐れたわけでもあるまいに、遂にその姿を見せなかった。ちょうどその日は七月四日、米独立記念日であったので、その夜、米士官はありつたけの携帯食糧を出して全船員を招待し激励した。人体にも給油された船員たちは翌日黎明と共にマスト

によじ登り、終日見張ったがその日も遂に一本の水柱をも発見出来ず、空しく日が暮れて行った。翌朝、日も高く昇り、もうお昼になろうというのに士官たちは起床しない。どうしたのかとたずねると、もう携帯食糧がなくなったので腹を空かさないように寝ているのだと言う。昔欧米航路で腕をふるったコックが驚いて早速素晴らしい鯨のビフテキを運んで来たが、くさくて食べれないと言う、とうとうまた夜になって空腹も手伝った士官たちは遂に帰ると言い出した。一頭もとらずに帰っては燃料代だけでも莫大な損失である。驚いた船長は三拝九拝してもう一日の猶予を乞うた。けれども士官は、もしわれわれが予定の期日に帰らなければ米軍は飛行機を飛ばして捜査に来るであろう。そのガソリン代の損失の方がもっと大きいと主張して、がんとしてゆづらない。通訳としてその対立した感情の中に入った私は途方に暮れた。夜遅くまで決定せず、双方疲れきってそれぞれベットに入ってしまった。殺気立ったふんいきにねむられず、深夜に私は一人床を出て甲板に立った。

進んでいるのか戻っているのかその方向はわからねど船は争う者たちを一つにのせて、波をけたてて勢いよく走っている。淡い弦月の光にさえるエンジンの音に和して波立つ白泡がくずれくずれて闇に呑まれて行く。じっと見つめて立っていた、私の口からいつとはなしに、

〝もろびとこぞりて迎えまつれ、久しく待ちにし、主は来ませり、主は主は来ませり〟

の讃美歌が出た。だんだんと元気づいて来た私の声はエンジンの響きと



波の音に調和して気持よくこだました、私は夢中になって幾度も幾度も繰返して歌った。鯨の腹の中で祈って〝われ患難の中よりエホバを呼びしに彼われにこたへたまへり〟と言ったヨナが共に在るような感じがした。

翌未明に、私が舵手室に上って行くと船長が血眼になって前方を見つめている、遂にまっこう鯨の大群を発見したのである。わが船がこの大群に接近する頃にはすでに無電によって数隻の捕鯨船が洋上にその勇士を現わし、それより暫らくの間華々しい海上戦が展開され数十分後には数頭の大鯨がその巨体を海面に横たえたのであった。可愛い子供鯨を伴なった母鯨を射った砲手は止めさせられるそうである。子鯨と言ってもさめぐらいあるがほんとに可愛いい。直径二吋以上もある大ロープでも二十回近く使用したら、変えねばならないそうだが私の乗った船が四十五呎余りの大鯨を射止めた時疾走する鯨にロープが全部延び切って後暫く船が鯨にひきづり廻されていたが遂にロープが切れてしまった。

この壮観な光景に士官たちの顔も、ほころびその日に三頭も捕獲した船長始め船員の喜びは一方ならず、双方めでたく和解して、その夜は凱歌をあげて帰途についたのであった。夕闇が迫ると舷側に結び付けられた巨体をめざしてふかの大群が襲来してくるが海中にその鱗光がきらめいて実にせいさんな感じがただよう。私たちは鯨の肉でふか釣りと、しやれこみ数頭の大ふかを釣り上げ土産としたのであった。

その後私は間もなく主を迎えてこの教会に改宗したのであったが、ヨナ書を読む時、いつもこの三日余りの金華山沖の捕鯨船の生活を思い出す。

THE PSEUDEPIGRAPHA AND OLD TESTAMENT

擬似聖文と旧約聖書

プレストン・ロビンソン

「死海の附近で発見された古文書の中に、アダムとイヴ、エノク、ノア及び十二の族長の名を作者名とした遺稿があった、けれども学者たちは決してこれらの記録書が実際にこの人々によって書かれたものであると信じなかったのでこれを匿名（作者不明）記録と呼んだ。そしてこの記録はプシュピデグラファ（擬似聖文）と名づけられた。」

死海の附近の洞窟で発見された古代の巻物のもたらした最も重要な意義は、キリストの福音が永遠なものであり、彼がこの地上に来る、ずっと以前から教えられていたことに対する新しい確かな証拠をもたらしたことである。この記録は、一九四七年に偶然に発見されたもので、キリストの時代及びその前後を通じて、明らかにこの地帯に住んでいた特異な宗教団体によってその洞窟の中に蔵されたものである。

今、その巻物は訳されて、これらの民が、多くのキリスト教的な、教義と信仰を持っていたことが明らかになった。彼らは原始キリスト教会（初代教会）と同ようの教会組織を持っていた。彼らは浸礼を実施していた。彼らは啓示が引き続きもたらされることも信じていた。彼らは救主または義の教師の来るのを待ち望んでいた。彼らは初代のキリスト教徒たちと同ようの共同生活を営んでいた。彼らは兄弟愛を教え、実施していたが、それが当時のユダヤ人たちにねたみと軽蔑の念をおこさせたのであった。

後にキリストとその弟子たちによって教えられたキリスト教徒の生活及び教義との類似点が伝説及び其の他古代の宗教から広汎に証明され、このことが多くの学者をして、キリストの教えは彼が世に来た時を以て始まるものでないことを確信させた。福音の永遠性に就て何も知らない人々にとっては、これは誠に当惑する確信である。イエスはパレスタインに生れる前に実除に旧約の主として彼の福音を以前の神権時代の予言者たちに教えたことに就ての知識もなくこれらの学者たちは、キリストの始まりに当感し、これらの宗派がどこでいかにしてその教義を得たかを不思議に思っている。（ニーファイ第三書十五章参照）「エスインズ」（古代ユダヤの修道派の人）または「死海の聖約の民」として知られている、この民が、これらの信仰生活をいかなる根源から得ていたのであろうか？　バプテスマのヨハネの前に、いかなる権能の下にまたいかなる伝統により彼らは浸礼を行っていたのであろうか？　彼らがそのようにキリスト教的であるのになぜ、新旧両約聖書は彼らに就て黙しているのであろうか？

この問題は我々に挑戦している。今日に至るも明確な答えはあたえられていない。けれども興味ある事実の集積はその回答にある光

明と提案をもたらしている。

この民が持っていた信仰の根源と見られる一つの重要な指示がこの洞窟において発見された記録からもたらされた。今日目録を作られたこの発見された記録を見るに死海の聖約者たちによって三種の記録が保存され貯蔵されて来た。これらは次のように構成されている。

(一) 彼ら自身の手記
(二) ある完全な旧約聖書及びその他の旧約聖書の註釈及びルツ記を除く、すべての旧約聖書の断片
(三) 長い間、学者たちに知られていたが、完全に理解されていない他の古文書、プシュデピグラファとして知られる、

これらの記録は永年に亘って旧いヘブライのゲニザフス及び世界中の旧い博物館または図書館から考古学者によって発掘されて来たものである。これらの書物は作者としてアダム、イヴ、エノク、ノア及び十二の族長らの輝かしい名がつけられている。学者たちは、これらの書物が実除にこれらの作者たちによって書かれたとは決して信じなかったので匿名の文書に類別し、プシュデピグラファと名づけられた。

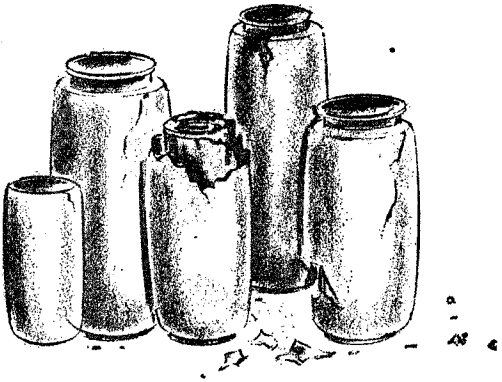
これらの記録の最も早期の写本はヘブライ語、アラム語、シリヤ語、アルメニヤ語、スラヴ語、アラビヤ語、エチオピヤ語で書かれている。これらの書物の現代語訳は、アメリカ合衆国及び全世界を通じてある大図書館で見ることができる。

これらの書物の殆ど完全なテキスト及びその他の断片が、死海の洞窟で発見されたという事実は、死海の聖約者たちは単にこれらの記録に通じていたばかりでなく、それを彼らの聖典の重要な部分と見なしていたのであった。少くとも彼らが彼らの共同社会が滅亡するのを恐れた時、彼らが後に旧約聖書の一部となった記録に払ったと同ようの注意を、これらの記録に払って貯蔵したことは明らかである。

プシュデピグラファの最初の英語版は、一九一三年にオックスフォード・プレスによって全集物として出版された。この全集はR・H・チャールス博士によって編集され十七巻を含んでいる。

ぼうだいなこれらの書物の内容は根本的

に、旧約聖約書特にモーセの五書の内容に類似している。これらは創世から士師時代迄の補足をなしている。ある評細な記述は遙かに旧約聖書の範囲を越えて広がっている。また



他の部分においては簡単にあるいは省略されている。その上にこれらの書物は、ヘブライ語の聖文のギリシャ語への七十人訳がいかにしてできたかに就ての説明、ある古文と主張されるもの及び、アダム、エノク、ノア、アブラハム、十二の族長及び〝モーセ〟への啓示と称するものが含まれている。

これらの旧い記録は旧約聖書の権威をいささかも減ずるものではない。実際においては、これらは却ってモルモン教会の信仰個条〝われらは、正確に翻訳されたる限り、聖書は神の御言葉なりと信ず〟を根本的に確証するものである。他面これらの記録が権威あるものであるにもかかわらず学者たちがこれに同意しないならば、これらの記録はモルモン経の次のごとき声明を裏付けするものとなるであろう。

〝……神の子羊の書物から誰にも解る貴い多くの記事が抜きとられていることがわかる〟

（ニーファイ第一書十三：二八）

〝それゆえに汝らはすでに聖書を持てるゆえ、わが言葉の全部がそれに含まれたりと思うべきにあらず〟

（ニーファイ第二書二九：一〇）

なぜこれらの書物が旧約聖書の正典とされなかったか、その根本原因の一つは疑いもなくその編集者がこれらの書物の権威に就て確信を持てなかったからである。更にその内容

の多くが旧約聖書に出ているからである。けれども可能だと見られる他の理由はチャールス博士がエノクの書の序文に言っているように、これらの書物は、ヒラリ、ジェロム、〝アウガスチン〟らの権威者の禁令にかかったのである。チャールス博士の言によれば、正典としての取捨に多大な影響を果した、これらの人々が明らかにこれらの書物の含んでいるキリスト教的な教義を阻んだのである。彼らはイエスがこの地上における生涯の間に彼の福音を始めたと信じきって、キリスト教的教義を含んでいるこれらの書物を旧約正典の一部に加えることを承知しなかったのである。実際に、これらプシュデピグラフィックの書物の中には著しくキリスト教的な概念または考えの参照が五二六もある。儀式に就て言うなれば、アダムとイヴの書の記録には明らかにバプテスマが必要であると教えている。この記録は、〝その時、人々は水によって彼らの罪から潔められるであろうけれど、水によって潔められようとしない者は罪に定められた〟と述べている。

このような教えは福音が完全なかたちにおいてアダムにあたえられ、また救主が来る以前の幾度かの神権時代に、この地上に設定されたことを知らない宗教的指導者たちの障害となって来たのであった。この事実がユダヤ人のキリスト教に対していだいていた自然の反感と相まって、新旧両約聖書が共に古代ユダヤの修道派の人々に就て沈黙している結果を招いたのである。

学者間にこれらの擬似聖文の年代に就て、疑問があるけれども大体に於て最も新しいものは二世紀から三世紀にわたるものであり、最も旧いものはキリストの降誕数世紀以前にさかのぼるのである。

これらの旧い記録は、イエス・キリストの福音は昨日も、今日も、明日も変りなく永遠なものであると言う我々の知識に更に証拠を増し加えるものである。そればかりでなく、これはバプテスマを本質的な儀式であると教えるこれらのアダムやイヴを作者名とする旧い記録の発見を示すものである。

高価なる真珠で我々はアダムはバプテスマを受けたと告げられている（モーセの著六：六四、六五参照）

アダムが救主自身と同様に〝正しき事を、ことごとく為し遂ぐる為〟この儀式を受けたことは疑いないことである。

「よう」

平和を作り出す

紙谷富保（仙台支部）

「人類が現世にあるのは幸福を得んためである」とはリーハイのことばであるが、幸福を得たいと望むのは人の常であろう。

人間が幸福になるためには物心の両面がみたされなければならないが、いまわれわれは物的な力の均衡によってあやうく保たれている〝平和〟という世界情勢に一喜一憂しながら生活している。科学による力の誇示などはある意味において、人々が幸福になるための一段階であるかもしれないが、人間は互いを牽制し合う冷戦を長い間くり返してきた。さらに現在は規模が大きく複雑かつ巧妙になっており、いかに力のバランスがとれているとしても、人々を不安におとしいれていることには変わりがない。

現代において宗教人口が急増しているにもかかわらず、一般には「人類の悩みを解決すべき宗教が、教会という小さなカラの中にとじこもっていて、宗教の無能力をカムフラージしている」と酷評されているのはなぜか。これにわれわれは、なにをもって答えればよいのか。

ある姉妹は、自分の悩みに対して宗教はなんの救いにもならない、といって教会を去っていたったが、「自分に救いを得させてくれなかった。自分に幸福を得させてくれなかった」という責任は、神の教会にあるのではけっしてなく、その人が救いにあずかるために、どのようなことをしてきたか、ということをあるのではなかろうか。「はっきりいって兄弟姉妹たちは、なぜもっと福音の研究に熱意を示さないのだろうか。かれらをみているとまったくはがゆい」とある兄弟はつぶやいている。あたかも素通りするような早さで教会を去っていく人々の多くは、まったく福音の不勉強が原因だと思うと、私も残念でたまらない。それでいて当人たちは、案外自分を正当化し、責任を転嫁する場合が多いのである。石の上にも三年ということわざがあるが、私は福音を受け入れた人々が、もしこのことわざのように三年間、本当にまじめに福音を研究し、実生活においてそれを忠実に守るならば、福音に対する確固たる信仰をうち立て、りっぱな信念を持つ人格を確立できるものと確信している。すなわち真の平和をつくり出すことのできる一人の人間の誕生が、ここにあるのだと思う。そしてその人間の周囲には家族そして友人と、なんにんかの人間がおりここに真の平和への無限の広がりが信じられるのではないだろうか。

ともに考え

われわれがささやかな幸福をおびやかされているというは、いかに信じたことを実行することがむずかしいことであるかを物語っているようである。真に地の塩となるべく、モルモンとしての自覚をかえりみたいものである。そこで私は次の三つのことに心をとめておきたい。

管理・信念・意欲

まず管理だが、なにを管理するかというと家族の健康であり、経済であり、欲望である。少なくともこの三つのことをコントロールしなければならない。もしモルモンが交際だからといって酒を飲み、欲するものを無制限に買い込んだりしていいものだろうか。「試練された霊魂は試練されない霊魂の間にあってかれらを統率するものだ」とオルソン・ホイットニー長老はいっている。

第二の信念であるが、ヤコブ書に、神に祈るときは疑わず信仰をもってせよ。疑うものは風の吹くままにゆれる海の波に似ていて、主からなにかをいただけると思ってはいけない、と書いてあるが、生らいにおける確固たる信念の確立は、われわれの平安と成功への道に欠くことのできないものである。

かって私が教会にはいってまだ日の浅いころ、教会の宣教師制度について学び、自分も宣教師として奉仕したいと思ったが、果して本当におめしがきたとき、すべてをおいて出かけるほどの信仰があるか、と自問していたものであった。それから何年かして、日曜の夜、突然伝道のおめしがきた。私はこの二年という伝道期間を心から神に感謝している。そこには人々の中に真の平和をつくり出す奉仕の機会が無限にあったからであり、私自身も福音というよろいでしっかりと身をかためることができたからである。そこには困難なことが限りなくあり、愛する兄弟、姉妹に大変めいわくもかけてしまったが、有意義なたのしい時間であったことにはまちがいない。

次の意欲とは、すべての前進のため、いいかえると、平和をつくり出すための力である。信仰、愛、勇気、積極性などは必要な徳である。意欲のないことは人間を無気力にする。ときどき自分の生活をふり返り、信仰生活が無気力に落ちていないかどうかをたしかめる必要がある

すべての発展のための力は、勤勉と、一里行けといわれたら二里行くという行ないが、もっとも大切な平和メーカーであることが、私の伝道と、その後の仕事で学んだことである。

伝道本部だより

バプテスマ

堂島禧子　阿部野
伊藤寺美子　〃
唐岩幸子　〃
岡みち　〃
島田弘子　〃
鷲邦次　〃
中辻裕子　福岡
弓削テルヨ　〃
弓削敏明　〃
笠井美津子　群馬
北村正隆　〃
藤林悦代　広島
引寺尚美　〃
梶山幸子　〃
梶山正博　〃
金沢アサコ　〃
幸田正美　〃

倉田弘　〃
栗原勉　〃
黒瀬能聿　〃
槇野順子　〃
松川幸子　〃
森本都子　〃
村山文子　〃
中村ヨシ子　〃
竹林喜美子　〃
徳川敦子　〃
屋敷康寛　〃
吉田和子　〃
安藤修平　名古屋
伊藤知慧子　〃
河村裕子　〃
冨板紀代子　〃
福田一郎　西ノ宮
石川美幸　〃

俱野香代子　〃
安井吾朗　〃
原光子　岡町
原裕二郎　〃
講崎幸子　〃
宮垣重夫　〃
中永靖子　〃
新垣元敏　〃
谷義則　〃
畑中陽夫　小樽
不二有子　三ノ宮
中西宏一　〃
中西美智子　〃
中西吉恵　〃
中西淑子　〃
菊地千恵子　仙台
中田喜美子　〃
佐藤富美枝　〃
江上寿幸　東京中
浜田哲哉　〃
石川晴雄　〃
木塚弘彦　〃
松本敏江　〃

高橋正司　〃
玉山弘道　〃
土屋明英　〃
内山一紀　〃
若林一　〃
笹木由紀子　〃
小池清治　東京北
森川義司　〃
織本かつ子　〃
鈴木栄二　〃
小林登美枝　東京南
中村喜彦　〃
鈴木米子　〃
福井弥　横浜
池田悠行　〃
池田安之　〃
岩崎洋子　〃
加藤悦子　〃
永見清子　〃
相良喜子　〃
佐藤弘司　〃
田中朋子　〃
山田和　〃

山田　強　横浜
山下八重子　〃
宮城苗子　那覇
長嶺則子　李　康　永　淳　ソール西
瀬覇千代子　〃　鼎　九　〃
高天錫（ゲイースト）

神権

李鍾珩　〃
沈教鎮　〃
姜正一　プサン
金左鳳　〃
金永哲　〃
ト景子　〃
崔恵順　ソール中
金在敏　〃
金塊干　〃
金永姫　〃
張正淳　ソール東
金泰玹　〃
権光秀　〃
李洛川　〃
李松範　〃
姈美京　〃
林順栄　〃

執事

アオヤマ　リョウヘイ　名古屋
イガラシ　タカオ　新潟
コニシ　シンイチロウ　三宮
ヤマカワ　ヨシノブ　〃
サト　マツオ　札幌
シバタ　マサキ　〃
アライ　カズヒコ　山形
ハンダ　ヒデオ　〃
ウシヤマ　シンイチ　〃
キタジマ　クニモリ　横浜
シマムラ　タダシ　〃
タザキ　イチロ　〃
（他に韓国で五名）

教師

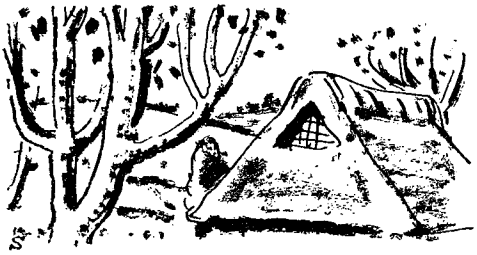
モリモト　タカズミ　広島
シオ　タカヒコ　仙台
（他に韓国で一名）

祭司

ワカマツ　ミチノリ　名古屋
カミオ　ノボル　三宮
ハラ　ヤスシキ　東京中
カネコ　マサトシ　〃

長老

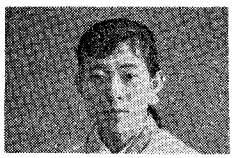
マツウラ　ヒデアキ　福岡
ウエハラ　アキヨシ　群馬
サカモト　ヨシアキ　岡町
シオ　タカヨシ　仙台
ウエノ　タケシ　仙台
カンザキ　リョウタロウ　東京北
マツシマ　レツイ　東京西
マツウラ　タカヤス　〃
ナカヤマ　ケンスケ　山形
コイズミ　ヤスノリ　横浜
サガラ　ケンイチ　〃
（他に韓国で一名）



＜北海道＞

地方部大会

扶助協会でのお話



大谷幸姉妹（札幌支部）

家庭に於ける宗教の実践

このたびの扶助協会の部におきましての課題は、「キリストの証人としての立場からの家庭における宗教の実践」と云うのでございました。皆様お気付のことと思いますが、これは言葉としては決して耳新しいものではありません。しかしこの課題に含まれている内容は非常に深くもあり、かつ高度なもので一朝一夕には云い尽されないことと思います。

この題から考えてみますと、宗教の実践と云うことは宗教の意義をよく知り、そしてそれを行うと云うことでございます。モルモンの信者は幸なことにこの宗教の意義ということに就いては皆よく知っている筈でございます。しかしどの程度浅く、あるいは深く知っているかは各人各ようの違いがあるでしょうし、また知っていても行うとなるとそれがどのように実行されているかは各々の個性によって来ると思われます。

信者がキリストの福音を行うにしても、一番先に知らなければならないのはキリストの精神をよく理解するということで、それにはまず聖文を通読すると云うことが本当に大切と思います。私たち人間は何事に対してもそれをよく理解すると云うことはなかなか難しいことと思います。宗教の意義を知っていると云うことと、理解して居ると云うことでは少し違いがあると思われます。まず知って、それをよく理解して、更にそれを実行に移すと云う段階になると思います。

オルガンを弾く時に楽譜をよく読み、その弾き方もよく心得ていてもいざ弾くとなると思うように手が動きません。上手に弾くためには、毎日毎日少しずつ絶ゆまず練習する外に方法はございません。そのように信者と云われる私たちは神をよく知り、徳の高い立派な人間になるためには、毎日気のついた善いことをそれがどのようなことであっても実行してみる事で、もしその結果が失敗に終ったら、なぜ失敗したかを色々な角度から検討することが大切と思います。例えよいことであっても、無理やあるいはその適切な方法を欠いたりいたしますと、よい結果は得られません。善いことを行うにしても、そこに深い思慮を働かせなければならないと思います。

日常数々の文明利器や書物等により私たちは色々なものを見聞きいたしますが、昔はなかった交通機関、医術の進歩、日常生活に深い恩恵をこうむりつつある道具その他このようなことを作り出し研究している人のお話を聞いていますと、皆本当に真剣にその仕事と取り組み、朝な夕なに絶ゆまず世の人のために二十年三十年、あるいは四十年の歳月をかけております。

私たち信者は、自分は信者である什分の一も納めている教会にも来ているし、神権もあると云うことだけで安心することなしに、絶えず研究し真理を理解する事に一歩一歩近ずくよう心がけるべきだと思います。マタイ伝三十五章にも書いてありますように、各人各よう知恵のあり方は異りますが、そのあたえられた立場で進歩するよう神様は教えておられます。一生懸命励む者には益々多くあたえるし、励まない者には決してあたえないと教えられておりますから家庭においても、またどこにおいても同ように励むことが本当に大切と思います。

家族の者を導くにはそれだけの福音に対する知識とその実行が必要でございますが、その根底となるものは云うまでもなく愛であります。もしその愛が正しく表現された愛であるならば、その人の少し位の過失などは隠してしまう力を愛は持っております。愛と一口に申しますが、あまり知性が勝ち過ぎていては冷いものになり、盲目的愛は愛の本当の効力を発揮いたしません。母というものは子供に対し、家族に対し皆深い愛を持っております。しかしその用い方によって現わされる結果も随分違ったものになってまいります。その本当の愛の在り方を教えるものは絶えず求める者にあたえられるキリストの福音でございます。そしてそれはやはり年月をかけなければならない場合が多いと思われます。私たちがキリストの福音を家庭の中に浸透させるためには、決して短期間やあせりや多弁を用いてはならないと思います。自分自身がキリストの福音をよく知りよく理解し実行したならば、自然に家族の者は従つて来るのではないでしょうか。

旧約聖書の方々には神の福音を実践した神の子たちの美しいホームの物語が語られております。アブラハムはいかにその子イサクを愛したか、彼の妻サラはその夫に仕えていかに忠実であったかその他数えきれないよい御手本がのっております。このような聖典は私たちに神の福音を実践した真のホームの姿を提供してくれております。私たちは家庭に在ってもどこに在っても、本当に神に愛せられるクリスチャンとなるための方法を絶えず探求すべきだと思います。それを続けて行きますならば自然とキリストの福音を実践していることになるのではないでしょうか。

「ホームは単に家ではない。また娯楽の機関ではない。また生活の本拠ではない。これら各種の要素を外にしてホームに欠くべからざる条件がある。何であるか、いわく、その中にエホバの神の宿ること、これである。夫あり妻あり子あり。またある場合には老人ありもしくわ異国人もある。しかしながら彼ら全ての中心に一つの本尊がある。すなわち神である。しかして家長はこれを代表し主婦はこれを助け二人によりて神の恩恵を全家族に分ち、一同こぞって神を崇む所そこに真のホームがある。

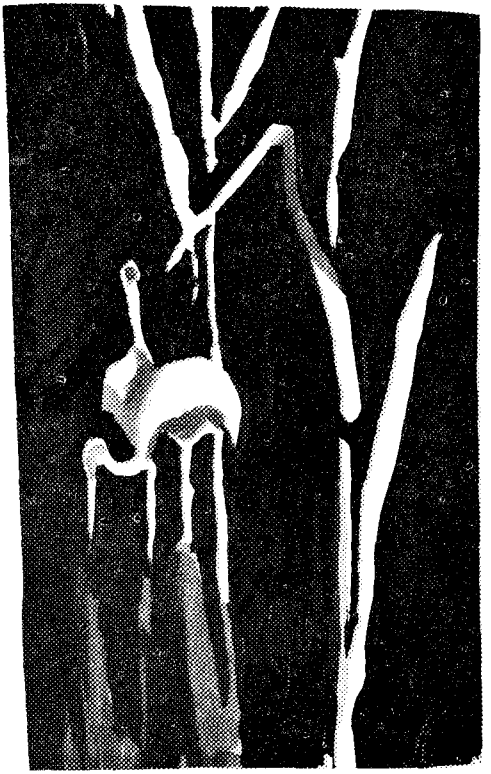
ゆえにホーム最も厳格なるとともに最も慈悲深き所である。堅きこと鉄のごとくにして、同時に美わしきことの花の如き所である。真のホームのいかなるかはこれ実見せずして解することはできない」

この文章は内村鑑三の名文です。私たちはこのような家庭に少しでも近ずくよう、神に祈り、絶ゆまざる努力をいたしたいと思います。全てを御子の御名によりて。アーメン。

支部だより

札幌支部

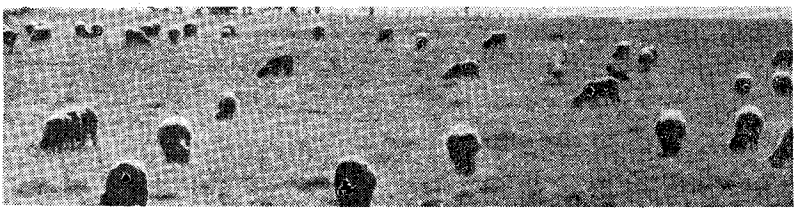
お見合から芽ばえたモルモン家庭



五月十三日児島克己兄弟と戸塚美沙子姉妹の結婚式が行われた。

児島兄弟は英語をやらせても教会の仕事をさせても才気あふれる活躍を見せてくれるが、何と言っても彼の歌声の素晴しさに驚かぬ人はあるまい。彼の隣で讃美歌等を歌うと「地震？」と心配させられる。体中に力があふれてイスまでガタガタふるえさせるのである。それにひきかえ美沙子姉妹は新会員のせいか実におとなしい。このおとなしい彼女を見てぼつぼつお化粧を始めたお嬢さんたちが翌日の祝賀会で宣言した。「私たちはもう年頃になりましたのでこんな気抜な余興は今日限りでやめます。」と、しかしどんなに努力しても彼女ほどおとなしく愛らしくはなれないだろう。お二人に挨拶をお願いすると、兄弟は、会員たちの親切に感謝され結婚に至るまでの話を披露してくれた。彼女はその昔この札幌の地にくわを入れ頑張り通してきた開拓者の子孫である。お二人はお見合によって知り合ったが兄弟はこの人と結婚するというスピリットがあったのでその旨彼女のお母さんたちに話し交際することになった。やがて彼女を教会にさそい、彼女は改宗した。かくして二人は結ばれたのであるが新しいモルモンの家庭ができたことによってこの支部にも何か新しい希望と力強さを感じさせる。

（笹尾敦子記）



Younger Generation

私の発表	柳田喬夫	(名古屋支部)
〃	鈴木綾子	(新潟支部)
私の仕事	河村裕子	(名古屋支部)
夏の夜の語り	田枚勝枝	(東京南支部)
祈	百瀬久子	(松木支部)
讃美歌と共に	伊藤真紗代	(名古屋支部)

私の発表

その一

柳田喬夫（名古屋支部）

私たち十代は、教会で新しく来た人に対して同じ年頃の人はもちろん、年下、年上の人に対しても、親しみを持って歓迎し、良い話をし相手にならなければいけないと思う。教会を訪れても、誰も話す相手ができなければ、つまらなくなり来なくなってしまう。特に私たちぐらいの人は、友だちがいなければ、教会はおよそ退屈な所になるのではないかと思う。

自分では気付かず、以前から教会に来ている友だち、会員で、グループを作り、休憩の時レッスンの時など自分たちだけでかたまってはいないだろうか。それに気が付いた時はすぐグループをとき、新しい人と友だちになるよう努力しなければならない。教会内に、特定のグループが有ることは、教会の雰囲気を柔げるのに、大きな障害になると思う。

よく異性の人とは、何か口がききにくいという人がいる。教会に来た時、異性の人から親しく歓迎されることは、大変嬉しく感じるのでは無いかと思う。できたら休憩の時間に色々と話しをして、それも教義のことだけでなく、学校などのことも話すと親しみが、湧くと思う。私たちは教会を、暖い愛に満ちた雰囲気にしよう。

その二

鈴木綾子（新潟支部）

私たちモルモンの聖徒の名に於いて、今強く知らなければならないことは、末日は本当に近いと言うことです。聖書やモルモン経に記されている多くの予言がすぐに成就され、また今日も尚方々で多くの天災や、又は革命、動乱と人々は混乱状態を呈しており、常に精神的にも落ち着きのない毎日です。私、個人は今平和と言える状態にあります。私の周囲は本当に静かです。でもこれは嵐の前の静けさと言うのかも知れませんし、常にニュースに敏感であり、そしてそのための用意を怠ってはならないと思います。マタイ伝の二十四章を読む時に特に強く感じます。末日に高くあげられたいと思うならば、福千年の時に義人と共にありたいと願うなら、毎日を本当に大切にし、神の誡めを常に守り、そして行いによって世の人々に神の存在を知らせなければならないと思います。

（十七才）

私の仕事

河村 裕子（名古屋支部）

「こうして神様は、私たちが住んでいる、美しい世界を、お創りになったのです。日曜日がなぜお休みなのかわかりましたね。」フランネルボードにはられた、草、木、動物、月日星等の絵を、一心に見つめる子供たち。

私が学校ごっこをして遊んだ頃からの、つまり「若き日のあこがれ」であった、「先生」になってから満一才になりました。

発育順調な赤ちゃんですと、もう歩くことができます。けれども発育不良の私は、起き上がることさえできません。

朝の透き通るような空気と青空に、やさしく取りまかれ、小鳥の楽しいさえずりを聞きながら、そして神様の大きな愛と恵みとを、いっぱい受けながら、子供日曜学校は行われます。年令も小さければ、出席人数も一番少ないクラスが、私の受け持ちです。その中で、私たちは、先生と生徒ではなく、神様のおしえを、学ぶ小さい姉弟です。子供たちの目が好奇心と満足感でみたされている時、私の心は、喜びに包まれると同時に、「教える」という責任の重大さと、尊さとを考え直さずには、おれません。純真で素朴な子供の心に、触れる時、私は自分自身を考えます。余りにも違う私の心を。

この子供たちが、近い将来に、新らしい兄弟姉妹となり、神権者となる日が、きっと来ることを私は確信しています。

今、私に与えられているもの

「元気で、健康で、若いこと」

これを正しく活用して、もっと神様のこと、教会のことを勉強して、よい神様の子供となれるように、力いっぱい努力したいと思います。

（学生・十七才）

夏の夜の語り

東京南支部
山牧勝枝

涼しく見えし
柳の木
話しに興を
注ぐつつ
夏の夜の
楽しき語りつまるも
つゆ時は
深夜なり

祈り

百瀬久子（松本支部）

「祈りとは何んぞや。」辞書によると「神仏に祈ること」とある。しかし私は「祈りとは、私たちにおおきな聖霊の導きと、安らぎとをあたえてくれるものだ」と確信しています。私が祈りとゆう言葉を知ったのは小学校三年生の頃であり、それを自分で行って見たのは、五年生の時、教会に行くようになってからであった。そして六年生になる三月、一家三人そろってバプテスマを受けていらい、現在まで、食前と、夜寝る前とのお祈りは、ずっとつづけている。

私が中学三年生の時であった。もうすぐ高校入試の近ずいた十一月の試験の時であった。どうしたわけか、別に勉強しなかったわけでもなかったが、順番が二十五番もさがってしまった。先生は心配して、「何かあったのか」と言われるし、悲しくなってしまった。そして、二十日程過ぎて、十二月の試験の前の晩二時頃、私はぜひ「前回のぶんを少しでもばんかいすることができますように」と祈ってねむりました。そしてその試験の結果がわかった時、驚ろくべきことが起ったのです。この前さがったぶん二十五番だけ、きっかりとあがっていたのです。たんなる偶然といえば偶然かもしれません。しかし、「さがる時は、ジェット機よりもはやく、あがる時は、かめよりもおそい。」といわれる現状にあって、私はおおきな、聖霊の導きを感じないわけにはいきませんでした。

またこれは、私の妹の小学校三年生頃の話でありますが、ある時、妹は、母と私にむかって「私はお祈りをしてねないと、いつも恐い夢を見るよ」といったことを覚えている。まだ九才ばかりの小さな子の言葉ではありますが、これは、お祈りをしてねると安らかにねむれると言うことを、あきらかに物語っているのではないでしょうか。

私は時々、教会がとてもいやになったらする時がある。そんな時、今日はお祈りなんかしないでやろうと思うのだが、床をしいてねるしたくをして、はっと気がついて見ると、床の上にすわっている。「何をしているのだろう？　あ、お祈りか」と思ってお祈りをして床の中に入ってから、今日はお祈りをしないはずだったなどと思い出して、一人で笑ってしまう。これが私の祈りの習慣であります。私の家は二階にあるので風がとても強くあたります。小さい時からこれがとても恐かったので、いっもねる前に「どうぞ家が風でこわれませんように」とお祈りをします。そうやたらにこわれては、こまるのですが、私は今でもこの言葉でお祈りして、絶対にだいじょうぶだと安心してねむります。お祈りは今まで六年間、私にいつも安らぎと、おおきな聖霊の導きをあたえてくださったことを心より証しいたします。アーメン。

共に讃美歌と

伊藤真紗代（名古屋支部）

私の責任はただ一つオルガン伴奏です。もう三年以上もひいていますから私の生活には讃美歌はなくてはならぬものです。私が生活していく上で、悲しいことといやなことがたくさんありますが、こんな時私は「心に太陽を持て」という詩の一節を、思いうかべるのです。

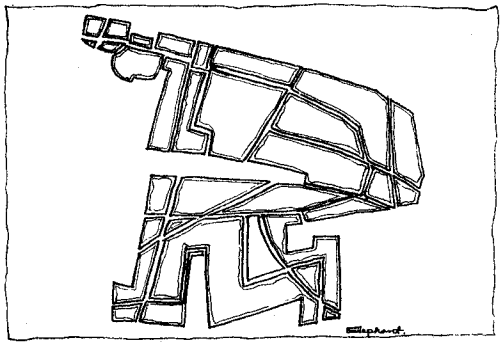
くちびるに歌を持て、そうすりゃ何が来ようと平気じゃないか、どんな寂しい日だってそれが元気にしてくれる。

自然に私の生活の中にとけこんでくる歌、打ちひしがれた心に、ほのぼのとした希望を、与えてくれる歌それが讃美歌です。心からの讃美歌は祈であると聖句にありました。私は何につけてもくちびるに讃美歌を持って、そして証詞のかわりにも心から神に、讃美歌を捧げます。これから悔いのない生活をするように心がけながら。

（学生・十四才）

忘れずに青年の時知恵を得よ。青年の時から神の命令を守ることを習慣とせよ。

アルマ書
第三十七章
第三十五節



けいず

日本の基礎民族は希伯来(ヘブライ)選民の正裔(エイ)なり　(一)

渡部正雄

主題は神道の大家で且つ、ユダヤ研究の権威者である日本人学者の斉しく主張するところであるが、カウリー使徒の予言

〝日本人は世界の民の間にあつて義のしるしとなるであろう〟

が実現するなら上記学者の意見も正しいものとされるであろう。ともあれ私たちはこの学者たちの論拠を研究してみたいと思う。

イスラエルの民が異教徒の感化を受け偶像礼拝に陥ろうとした時又無信仰にだらくしようとした時、エホバは、モーセ、エリア、イザヤなどの予言者を遣わして警告したが、古来神道を奉ずる日本に於いても同様のことが見られ、日本研究家として有名な、かの、ラフカデオ・ハーンは、その著に古来日本の国の乱れたる時は必ず神道家出現して、これを救済しおること、なほ希伯来の上代に於けるが如しと説破している。数世紀に亘り大洪水の如くに全国にみなぎる仏教の渦中にあつて溺れず屈せず、毅然として古道を維持して来

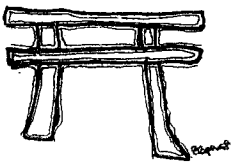
た、我が神道の儀式作法には、希伯来の故実作法と同一のものが数多く、彼は二千五百年余りの昔、亡国の厄に遇つて世界に四散したがこれを千古の経典に録して伝え、我は万古不易の国を保つて、これを日常の行事に伝えて来たが、彼我の酷示は恰も符節を合すが如く、唯々驚嘆する外はないのである。

以下両民族の風俗習慣及び思想行為の一致点を挙げて見よう。

一、浸礼（バプテスマ）と禊（ミソギ）

我が国の神道に水に浴して、その身の穢れを、濯ぎ清めることは古くから行われている。伊弉諾尊（イザナギノミコト）が黄泉（ヨミ）から帰つて筑前日向の橘小門のあはきが原で禊をされたが古事記神代巻に次のように記されている。

「是（ここ）に上ツ瀬は速し、下ツ瀬は弱しと詔りごち給ひて、初めて、中ツ瀬に降り潜（かつ）きて滌（そそ）ぎ給ふ」と国風一般に神を祭るとき、または除服のときなどに禊を行ふに、昔は川で行つたもので伊勢大神宮の神地を流れる宮川を一名、禊川と言い、河原に禊の御所と称する処があり、往者、斉王、敕使、奉幣使等参向のとき禊せられた跡であると言われている、延喜式に次の通り記されてある。



「斉王度会宮に参るには度会川に禊して神宮に参入すべし」云々

希伯来人も身を清める為に禊を最も厳粛に行い、キリスト教に於いても川流に全身を浸して浸礼即ち禊を行ふ、この禊は人類の始祖アダムのバプテスマに起源を有しているのである。主イエスがヨハネによつてバプテスマを受けたパレスチナの川、ヨルダンの意味は日本語に訳すると禊川と云う意味である。

民数記略十九章に「祭司はその衣服を浣ひ水にて身を滌ぐべし」とあり又「身の清き人、第三日目と第七日目に、その汚れたる者に之を滌ぐべし、而して第七日目には、その人みづから身を潔むることを為し、その衣服を洗ひ水にて滌ぐべし」云々とある。

エリシヤは癩患のナアマンに言つている。

「汝ゆきて身をヨルダンに七たび洗へ、然ば汝の肉本にかへりて汝は清く為へし」と。

二、鳥居の由来

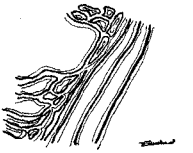
我国の特徴である神社の入口の左右には、上部に横木を渡した二基の柱を建て之を鳥居と称している。鳥居には白木、黒木、朱塗等の種類があり、石製銅製は後世に於いて出来たものである。又各家庭

の家の入口の前面に普通二本の柱のみを建て、門とするのは最も古い型で、これに屋根をかけ或は扉を設けたのは後世のことである。希伯来人は神殿及び各個人家屋の前面に二本の柱を立て、之を神聖なものとした。明君ソロモン王は其の治世の四年二月二日を期して首都エルサレムに壮麗な神殿を建て、其の神殿の前面の左右に二基の太い柱を建て、その高さは三十五キュビットと経典に記されていキュビットは日本の約一尺五寸に相当するので、この柱の高さは五十二尺五寸で丁度明治神宮の大鳥居に匹敵する。

歴代志略下第三章十七節に「この柱を拝殿の前に立て一本を右に一本を左にすえ、右なるものをヤキンと名づけ左なるものをボアズと名づく」

三、神殿の構造及檜材使用の制定

古来日本の国風として宮殿及神宮の造営には必ず檜材を使用する。神代の伝説に、素盞嗚尊（すさのをのみこと）が檜を以て瑞宮造営の材たるべしとのたまわれてから諸種の木材中で殊に檜を重んずるようになつた。ユダヤ経典によると神殿及び王宮の造営には必ず檜材を使用すべしと定めている。希伯来民族が檜を尊重せるは、四時縁にして堅質、香



り清く木目正しく不朽なる等による。サムエル後書七章二節に「王は予言者ナタンに云いけるは視よ我は檜の家に住む」更に同書五章十一節に「ツロの王ヒラム使者をダビデ王に遣はして檜及び木匠と石工を送れり、彼等ダビデの為に宮殿を建つ」

神殿を檜で建築するのはソロモン王より始まり、それ以前は大型の天幕を使用し、之を幕屋と称した。この神殿即ち幕屋の境内は長さ百五十呎、幅七十五呎の長方形で屋根を支える両方の柱は地より棟まで達するを法とし現に伊勢両大神宮はこの式に依つている。日本の神宮に拝殿と奥殿とあるように、希伯来の神殿にも拝殿と奥殿との別あり、拝殿を聖所といひ、その間口と高さは各十五呎で奥行は三十呎である。内部には三つ重ねの餅四皿などの供物と灯明台あり拝殿から数歩離れた奥に至聖所と称する奥殿あり、その高さと間口と奥行は各十五呎で内に神聖とする誓約の櫃、即ち三種の神宝を納めた櫃を安置する三種神宝とはモーセが神より授かつた十誡の石牌奇蹟の枝及びマナを入れた黄金の壺である。この至聖所には祭司の外入ることを許されず、我国でも神社の奥殿へは神主の外入ることを許されないのは同一である。神殿の入口の近くに水を満たした水盤あり、ここで祭司及び参詣者が手を洗い清めて参入すること是亦我が国風と同一である。

一年をかえりみて

青木さだ
（松本支部）

一年をかへり見まして神様のはかり知れない深いみ恵みにいまさらながら畏れております。昨年一月廿九日に七ケ月ばかりの病床からはなれ起きられるようになり、宣教師の訪門を受けたのが五月でございました。ちょうど幼い少女が悪童にいぢめられて泣きじゃくっていた時にお母さんにむかえに来られた時のようでした。神様は幼子をいとしんでくださいました。

そして「人の子よ起上れ、我汝に語はん」（エゼキエル書二・一）と主が御声をお聞かせくださいました。「我を贖う物は活く」（ヨブ記一九・二五）と真の神様は愛で在したまう「わがこの皮この身の朽はてん後われ肉を離れて神を見ん。」すべてを真の神様に献げしたがうことの喜びに今日あることを真心から感謝いたしております。

「みよ主を畏るるは之知慧なり、悪を離るるは明哲なり。」（ヨブ二八・二八）「しかる時にも彼とともに一箇の使者あり、千の中の一箇にして中保となり正しき導を人に示さば。」（ヨブ記三三・二三）真の神様の教会のあることを知らなかった私。熱心なモルモンの宣教師の心からの神の愛の導きによって真の神様の愛のみもとに立かえることができました。そして松本支部の兄弟姉妹の愛にささえられ、モルモンの会員として神様の御業のために働くことのできます今の私を真心から感謝いたしております。

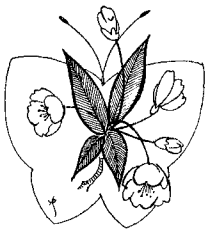
「ここをもて我みづからを恨み塵灰の中にて悔ゆ」（ヨブ記四二・六）神様はヨブを友のために祈るヨブに以前に

倍した所有物をあたえられました。どうぞ、未だ真の神様の教会のあることさえ知らない多くの世の人に真の福音を伝え、人を漁者となりたいと常に願っております。私もっと早く知っていたらと思っております。「この故に神の能力ある御手のもとに己を卑ふせよ」(ペテロ前書五・六)へり下って常に祈り、主の導きを求めることのできますことを願いおります。

この福音を忠実に学ぶ者には最大の賜があります。永遠に活る希望にもえ「富を求めずして知恵を求めよ。さらば見よ、神の奥義は開かれ、それより汝ら富める者とせらるべし。見よ、永遠の生命を有つ者は富めるなり。」(教義と聖約六〇七)そして「我らとわれらの子孫によりてすべてわれらの後の代の人々祝福を受くべし。」と(教義と聖約百十〇一二)全能の神様のジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリに賜わった啓示を今の世にマッケイ大管長によって受けつがれたえざる啓示によって、私たちにもこの末の世にあって約束されております。そして私には困難であると思いました系図も、愛ある宣教師、また愛する支部の兄弟姉妹のはげまし、また御手伝いによって作成し提出することができまして、今は愛する父母先祖、また十年前になくなりました主人らと福千年にすめることの喜びにみたされております。時間とお金があったらもっともっと探求して見たく思いおります。

また今はいろいろの責任をいただき、また教師をつとめることによって勉強になり、自分の霊魂をみがくことであると日々を感謝の連続であります。そして一つの問題にぶつかっても考え、また祈ることによって神の導を願い、一つ一つ進歩して行くことを学び、常に平安の内に過ごすことのできますことを喜びといたしております。

そしてこのすばらしい真の神様の教会員であることを誇とし、自分の活る道を神によって見出さしていただきましたことに、心の奥底からの満足感にひたされております。そして救主はキリストであり、ジョセフ・スミスは神権の権能ある真の教会の回復者であり、デビット・マッケイ大管長はこの末の日に真の神の予言者で、たえざる啓示を受けておられますことを証詞いたします私は、この恵まれた時代にありまして、日本伝導の開拓時代に大なる救に入れられましたこと、私の今日あることはモルモンの宣教師の愛と熱心に力をつくされた賜と心から感謝いたしております。どうぞ全宣教師の上に神様の豊なる祝福がありますことを心からお祈りいたしております。



「生　き　る」

—九月用—

三年間にわたるエンサイン—ローレルの福音研究計画は、「信ずる」と「生きる」と「奉仕する」の三つの部で完成することになっています。

本年度すなわち千九百六十一—六十二年度の教科課程はラルフ・H・ハーディ長老の書かれた「生きる」であります。これはエンサイン—ローレルの年齢の人たちが学ぶために最も適当な読み物であると非常な歓迎を受けております。

この教材の中には、この年ごろの若い人たちがきわめて身近かにもっている多くの問題を、末日聖徒の教えから明確に解決する実際的の方法が盛られています。そして若い人々の生活の中に、彼ら特有の問題の起ってくる姿を豊富な例を挙げて説明し、次に教会の基準を適用してどのような積極的なまた効果のある方法をとるべきかを説明してあります。ハーディ長老は最初に書いたレッスンを編集しなおして、上手に教えるなら、どの生徒の心もとらえずにはおかない新鮮味と温か味とを加えておられます。

三年で一まわりする間に、この課程は教会の若い人々に、日常生活に適用する教会の諸原則の姿を頭の中にはっきりと画かせ、教会の諸原則を日常生活にあてはめることによって得られる豊かな祝福を本当に理解させるように計画してあります。もしも注意深く祈りの心を持って教えるならば、この課程は強い証詞をつくる強固な基礎となるにちがいありません。

「クラスの教え方」

落ちつけ、見よ、そして耳を傾けよ。

あなたがMIAの教師としての自分の立場を考えるとき

一、落ちつけ、そして真の教育が何であるかをよく考えよ。成人した人々に教えることの特質が何であるかを落ちついてよく考えよ。エンサイン—ローレルたちに対する良い教育が何から成っているか落ちついてよく考えよ。このクラスであなたは何を教えようとしているか、その目的を落ちついてよく考えよ。

二、見よ、あなたの教えるレッスンの準備と表現とを「注意して見よ」。準備はどのようにしようか。どんな計画に従がおうか。レッスンを教える際にいろいろな変化をどうして確保しようか。あなたが教えるときの環境を見よ。

三、あなたが教えた結果に対して耳を傾け

よ。あなたがこのレッスンを教えるときに一しょに働らきたもう父なる神の「安心せよ」と宣もう声が耳に入るか。自分のしたすべてに対して父なる神が祝福を下さるようにねがっているか。あなたのクラスの人々は出席をして勉強をしているか。あなたは手に入る教材を利用しているか。あなたのクラスの人々の生活がよくなるように変化を与えているか。あなたは自分の仕事を評価して改善をしているか。

「教えるということの意味」

「教育とは、生徒自身が覚えるという結果を生ずる一つずきの行為である」。覚えることがなければ教えることはありません。レッスンや講義を読むだけや、手引きに書いてあることに目を通すだけでは必らずしも教えることになりません。教えるなら、生徒自身に考えさせ、また何らかの反応を起させなくてはなりません。

アダム・S・ベニオン長老は「教育ということは、習慣をつくること知識を得ること理想を教えこむこと、および人が自分を支配する力をもち、高尚な楽しみに参加し、また神を敬まい他人に奉仕するねがいと勇気とをもつ、清い知性のある自立することのできる人になりまたその状態がつずくよう永続的の興味を固定することを通して、一人の人を訓練する過程である」と言いました。

数年前にアーヴィル・S・バー博士は「有能な教師と無能な教師との間に存在する特徴ある差違」と名づける研究を公やけにしました。この研究は四十七人の優秀な教師と四十七人の無能な教師とについて行われた調査の結果であります。それによりますと、有能な教師は

一、自分の仕事を推し進める。
二、実例を度々挙げて教える。
三、クラスの討論を生徒と一しょになって行う。
四、教えている問題について優れた知識を示す。
五、良い訓練を身につけている。
六、愉快である。
七、熱情をもっている。
八、忍耐強い。
九、ユーモアを解する。

これに対して無能な教師は

一、貧弱な訓練しか身につけていない。
二、教科書による講義的な教え方をする。
三、時々怠ける傾向あり。
四、章句を暗誦してからいばりをしてみせることあり。
五、生徒にがみがみ言うことあり。
六、皮肉で暴君的で無関心であることあり。

またシー・O・デビス氏の「生徒の見たハイスクール」と題する別の研究は、百七十五校の一万三千名に上る生徒に質問を出して得た回答にもとずいていますが、その中で有能な教師は、

一、自分の教えている問題について有能でありまた優れた知識をもっている。
二、人格、能力、良い気質、同情がある。
三、公平である。
四、良い気立て、ユーモアが解り、親切。
五、興味を確保する能力がある。
六、清潔。
七、進んで人を助ける。
八、個性がある。
九、社交性がある。
十、忍耐強い。
十一、風采が良い。

「あなたの教育は幼児の教育とどんなに違っているか」

一、あなたのクラスの生徒は幼児よりも広い範囲の経験をもっているから、幼児よりも

独立して物を考えることができる。
二、年下の生徒よりも一層授業計画へ引き入れる必要がある。
三、彼らの興味を持続するためには、いろいろ変化に富んだ教え方が望ましくもありまた必要である。彼らはこれまで同じ教材についていろいろな方法でまたいろいろな場合に教えられている。あなたの考えに新しい装おいをさせるように努めなさい。
四、青春年齢の若い人たちを教えるには非常な気転を必要とする。

「このレッスンを教えるときのあなたの目的は？」

一般的目的を挙げると
一、事実と教義とを併せ示して教える。
二、グループが参加して事実と教義とを一つに組織し評価を行う。
三、行為が改善されるために、クラスで習ったことをどのように適用したらよいか生徒たちに導きを与える。

「レッスンをするための準備はどうするか？」

一、全体のエンサイン―ロールプログラムの中で、あなたのするレッスンの仕事がどんな位置にあるかを調べてみるために、「エンサイン―ローレルの手引き」を始めから終りまで読む。
二、エンサイン―ローレルのカレンダーを注意して調べる。
三、学科課程を行うための教材を豊かにするため、とじこみを造る。この中には新聞記事、雑誌の記事、詩、或る話題に役立つ人々の名前、絵画、逸話等を含む。
四、毎週の準備
(イ)毎週、あなたのクラスの生徒の一人一人について、その興味を覚えているもの、趣味、特殊な能力などについてもっと知るように努力する。こうすることによって、一層先生と生徒の間が親密になる。先生は生徒の一人一人が実際に経験している多くのことを利用して、レッスンの教材から個人的に利益を受けるように助けを与えることができる。
(ロ)カレンダーを調べて、人々を含む活動の照合を行う。
(ハ)予定の教材をよく考えて再読する。
(ニ)関聯した補助教材を求めてこれを組織する(あなたのとじこみと文庫とを調べる)
五、レッスンをするために注意深い計画を立てる。注意深く計画を立てて勉強をすると、指導者は
(イ)時間と労力とを省き、
(ロ)教材をよく組織し、
(ハ)完全な仕上げをし、
(ニ)教えるという技術を完成する。「仕事を計画し、然る後計画を実行せよ」。
六、計画の立て方（提案）
(イ)目的――この特定のMIAの夕べにこの特定のレッスンから、あなたのクラスの人々に、先生としてのあなたは何を得させたいと思うか。目的を明瞭にせよ、具体的にせよ、而して自分自身のものにせよ。
(ロ)前置き――あなたの教えを受けるグループ全部がすぐにあなたと共に考えているために、あなたは質問、個人的の経験、絵画などを使ってどのようにあなたのレッスンを紹介するか。
(ハ)教授の手順――教材をどのように提出するか。あなたが提示したいと思っている教材の大体を注意深く示せ。
(ニ)総括――レッスンの基本となる点を総括することが大切である。先生か生徒がこれをしてもよいが、総括することによって実際目的がはっきりする。
(ホ)任務の割当て――任務の割り当てが必要

なら、クラスの時間の終りにこれをする。グループの人々が参加することは一層大きな興味と一層よい学習とを助長するにちがいない。

「どのようにしていろいろ変った教授法を行うか」

一つ一つのレッスンに関聯して次の方法を研究して、特定のレッスンに対するあなたの目的を完遂するのにどれが一番よい方法であるかをきめて下さい。

一、討論による方法。これは問題についていろいろの見解があるとき、質問を通して生徒たちに助けを与えるのがレッスンの目的であるときに行う。この討論が成功するかしないかは、指導者の準備の如何に大いにかかっている。討論の先導をし考えを起させる質問の二つ三つを附して対論の要旨を書いておくと、討論を起させる役に立つ。レッスンを成功させようとする責任感をクラスの一人一人が同じようにもっているなら、グループのもつ士気は大いに挙がるにちがいない。

二、講義による方法。これはグループの人たちがもっていない知識を与えることが必要であるときに行う。指導者は後に討論の基礎として使うことのできる物語、資料または引用句などを与える。指導者は教材を明瞭にまたよどみなく話すために、教材を非常によく知っていなくてはならない。絵画、図表、黒板などを使えば考えをはっきりさせる役に立つにちがいない。

三、談話会の形式による方法。――これは問題のちがった面を手っとり早く示すために、あらかじめ準備され計画された短い話をいくつかつずいてする方法である。

四、座談型式の討論会による方法――この方法では、一人の議長と共に四人から八人の人々が一つのグループをつくって、クラスのほかの人々の前で一つの問題をいろいろの面から討論する方法である。この討論は固くるしいものではない。この討論に加わる人たちはあらかじめ問題について適当な準備をしてくるが、前の談話会でするような定まった話を用意してくるのではない。これらの人々は討論をするために一定の質問をもっている。議長は時間と照り合わせて彼らを一つの質問から次の質問へと誘導する。

五、次の方法によってもいろいろちがったやり方の教授をすることができる。

(イ)レッスンを発展させるために物語、絵画いろいろの経験、書籍、テレビなどを利用する。

(ロ)一つの選ばれた話題を討論するために、MIA指導者、宮教師、支部長、前に軍務に服していた人、旅行家、看護婦、母親などを招くことができる。

(ハ)ある問題についてクラスの一人が個人的の経験を話す。

「あなたが教えるときの環境を見よ」

一、あなたの教室の一般的気候は温いか冷いか、力強いものか誘弱的なものか。たとえば

(イ)あなたたちが仕事をしたり勉強したりしている部屋は、愉快な楽しいふんい気を生ずるような部屋であるか。

(ロ)その部屋には敬けんな感じが起るようなふんい気があるか。

(ハ)その部屋のふんい気は知的の活動をはげますか。

(ニ)興味を起す聖句が部屋に示してあるか。

二、人が必要とする基本的なものが与えられているか。

(イ)クラスの全員は誰一人「自分はほっておかれている」と感じている者はないか。

全部一人前の生徒として待遇されているか。

(ロ)レッスンが行われている中に、クラスの一人一人は皆発言権をもっているか。

(ハ)クラスの生徒は一人のこらず何らかの方法でレッスンに参加する機会が与えられているか。

(ニ)質問を発する機会、習ったレッスンを応用する機会、考えを出したり結論に達したりする機会が与えられているか。

「あなたのクラスの人々は出席して勉強をしているか」

一、会員募集委員会は、新会員との接触を活潑に監督していますか。

二、あなたのクラスの人々の興味と能力と才能とが、クラスの成功に最大の貢献をする機会を全部の者が必らずもつほど、十分にあることを知っていますか。

三、出席簿が正確につけてあって、新会員が挨拶を受けて特別に歓迎をされていますか

四、あなたは参加したことの照り合わせるするために、参加者の記録をつけていますか

これはつけておくと役に立つでしょう。

「先生に――若い人々は教育しなさい。訓戒するのではありません」

本当の教育をする確実な方法

第一段。この大切な責任を引き受けることを助けてくれる「仲間」を得なさい。「主なる神さま」をその「仲間」にしなさい

そのほかの者は誰でもだめです。「主なる神さま」とたえず交通をしなさい。

第二段。一つ一つのレッスンの内容を教えることに精通しなさい。自分自身の教え方を身につけなさい。

第三段。あなたの生徒である若い人々を親しく知りなさい。その人たちの住所、業蹟希望、感情、必要、直面している問題などを知りなさい。

第四段。レッスンの計画を書きなさい。あなたがレッスンの時間に生徒と顔を合わせる少くとも一週間前にこまかい計画をみな立てなさい。

第五段。完全な準備をととのえ、教授上の技術を胸に収めたら、生徒の一人のこらずに直接教えを施こす責任をもちなさい。

第六段。教えを受ける生徒が、グループの中に居てもグループから離れていても、教わったレッスンを一人一人の生活にあてはめる助力を与えるために、あらゆる機会をつくってこれを利用しなさい。

第七段。できるなら、一つ一つのレッスンをエンサインの「名誉の誓い」とローレルの「アダパール・プログラム」とに結びつけて教えなさい。

「祈りの心を以て注意深い計画を立てることはあなたの成功を確実にする基である」

「精細なレッスン計画は成功の鍵である」

「あなたは自分の仕事を評価して改善をしていますか」

一、あなたは、全部の人がはっきり同じ精神でいることを感ずるように友好的なふんい気をつくり出しますか。

(イ)新来者を紹介せよ。

(ロ)クラスの人々が互いによく知り合うよう社交的にする活動を通して機会を与えよ。

二、あなたは指導者であるときにいろいろな「方法」を利用しますか。

(イ)その「方法」をレッスンとグループの大きさと希望している目的とに適合させよ。

三、あなたは前以て注意深く準備をしますか

四、あなたは一つ一つのレッスンを紹介する興味深い方法を見つけますか。

五、あなたはレッスンをするとき、教材の実際的説明と例証とを利用しますか。
六、あなたは生徒たちが問題からそれることなく、レッスンをたえず希望した方向へ向けて進めて行くよう助けを与えますか。
七、あなたはグループの人々が独自の決定をするように助けを与えますか。
八、あなたは意見の相違を所理するに当って外交的手腕を発揮できますか。
九、あなたは討論をするに当って、いつも討論を組識立てて総括をしクラスの人々が目標に達して討論の使命を完全に果したと感ずるようにしますか。
十、クラスの人々は皆レッスンに参加してグループの成功のため責任を分け合いますか。

たえず広がり常に復雑化する環境を背景とし、またあらゆる悪企みを用いて信仰を破壊しようと努力している悪人たちの無情冷酷な努力を背景として、この続き物の中で取り扱ってある主題は、予言者ジョセフ・スミスを仲立として天から新しく啓示された諸原則を確信してこれを確く守るよう若人たちに実際的の援助を与えるものとして提供してあります。

子供の日曜学校ガイド

9月用

お知らせ

レッスンについて

聖徒の道六月号のレッスン計画表は十二月までに終るよう、計画されていますが、子供の日曜学校だけは、少し変更しまして、レッスンは来年の三月（昭和三十七年）までに、終らせるよう延期いたします。次の二つの理由の下に決定しました。

(1)各支部とも、レッスンが計画表通り、進行していない。

(2)子供たちを各クラスに分級する際、学年別とする。

上級　六年、五年
中級　四年、三年、二年
下級　一年以下四才まで

従って、四月を基準に新教課書を使用します。レッスンの遅れている支部は、関連のあるような所を二課位ずつまとめ、または、季節感を伴う課はレッスン計画表どうり進まなくてかまいませんから、それのふさわしい時期に行ってください。どうぞ三月までには、規定の教課書を終了されますように、がんばってください。

どのようにして、幸子ちゃんは彼女の『くせ』をなおしたか？

幸子ちゃんは、大きな目に、黒い髪のオカッパ頭をふりながらいつもニコニコしている可愛らしい女の子です。ここまで書くと、とてもいい子供なのだと思われますが、彼女には残念ながら、大きな「くせ」があり、その為に人々から「動き虫」という、あだ名で呼ばれ大変きらわれています。人々は彼女の本名を呼ばずに、常にあだ名で呼ぶのです。その名の通り彼女はとても活動家で一寸もぢっとしていることが出来ないのです。動き虫と

呼ばれる位ですから、そのさまは相当なものでしょう。家族の者も、かのじょのこの「くせ」を、なおして、静かな、いい子にしようと、いろいろと努力しましたが、だれも、かのじょを落着かせることができません。かのじょには、とっても素敵な叔母さんがいます。澄子叔母さんと云って、それはそれはいい叔母さんです。ある日、澄子叔母さんが幸子ちゃんの家にまいりました。そして、幸子ちゃんのお友だちが彼女のことを「動き虫」「動き虫」と呼んでいるのを耳にしました。叔母さんは、自分の愛する姪が、そんなあだ名で呼ばれているのを、とても残念に思い、なんとかしてこの悪い「くせ」をなおしてあげられないものか熱心に考えた末、早速、町に出かけ美しく包装された小箱を買ってまいりました。この美しい小箱をみた幸子ちゃんは、箱のまわりを、激しく動きまわります。叔母さんは、かのじょにこう云うました。

「この箱はあなたへの賜り物ですョ。あなたの悪い「くせ」がなおった時にあげましようネ。いつも休みなく身体をゆすぶっているのは、いいことではないのですョ。だから、この箱をあなたがいつでも見られる棚の上においておきましょう。」幸子ちゃんは、手をのばして、箱にさわろうとしましたが、すぐ叔母さんに次のようにいわれました。「あなたが食事をする間、側においておくのはかまいませんが、私がそれを開けていいですョと云うまであけてはいけませんョ」幸子ちゃんは箱の側に、ほんの少し、じっとしていましたが、またもや身体をゆすぶり始めました。叔母さんはそれをみて、箱をもとの棚に戻してしまったのです。美しい賜り物の側にすわるたびに、幸子ちゃんにゆさぶりをやめようと思い出させるのでしたが、一日のうちに何度も、もとの棚に戻さなければなりません。幸子ちゃんは、自分の「くせ」を考え始めました。その夜、幸子ちゃんの母親は叔母さんに尋ねました。包みの中は何かと……叔母さんは静かに歌い出しました。

私は小さなオルゴール
私は鍵で目をさます
上で小さな男の子
私のために踊ります
頭をぐるりとまわしたり
お手てを上に、また下に
チンチン　リンリン　音楽は
彼のダンスのおわるまで

「なぜ、オルゴールをかのじょのために買ってらしたの」と母親は云いました。「叔母さんあなたはかのじょを甘やかし過ぎますョ」澄子叔母さんは、こう返事しました。「それは、特別の理由でそうしたのです。何んかして彼女のくせをなおしてあげたい気持から！」母親は笑って云いました「それが成功すればいいのですが？」それから三日間も毎日同じゲームが、美しい賜り物と一緒に、何度も何度もくり返されました。だれもが驚いた事には、幸子ちゃんのゆすぶりがだんだん少なくなって来たことです。かのじょ自身はそれには気付かずにいましたが、たしかにゆすぶりが少なくなって来たのです。幸子ちゃんはなぜ、何回も賜り物が取りあげられてしまうのか、はっきりと理解して来たようです。明日は「安息日ですネ、幸子ちゃん、あの箱を日曜学校に持っていらっしゃい」と叔母さんが云いました。叔母さんは、幸子ちゃんと一緒に子供の日曜学校に出席し、全部の子供たちが一目でみえる位置に腰をおろしました。美しい箱は幸子ちゃんの膝の上で可愛らしい小さな手でしっかりもたれています。幸子ちゃんはレッスンの間少しもゆすぶりをせずじっと静かに、すわっているではありませんか。先生方は驚きました、そして、ああ、

きっと叔母さんと一緒だからおとなしいのだろうと思いました。レッスンが終った時に先生は、叔母さんにも子供たちと一緒に歌をうたってくれるようお願いしました。叔母さんは「ええ喜んで、幸子ちゃん、箱を開けてごらんなさい。すぐにネ！　あなたが、どんなにか熱心にその箱を開けたがっているが、叔母さんに判りました。前に約束したように今こそそれを開ける時がきたのですヨ。」と申しました。子供たちは幸子ちゃんのまわりをぐるーと囲み、一体何が出るのかしらと好奇心の目をみはっています。幸子ちゃんは、ニコニコしながら、リボンをはずし包装紙をとりさりました。とうとう中身が出て来ました、子供たちはそれをみて喜びの声をあげました。その中で最もうれしかったのは幸子ちゃんでありましょう。叔母さんは、静かに静かにきれいな声で歌い出しました。

私は小さなオルゴール
……

幸子ちゃんは幸せで頬を紅潮させながら、叔母さんの方にふり返り私はもう決して身体をゆすぶらないわ。私のお友たちのために鍵をまわしてもいいでしょう。」鍵をまわしますと、小さな男の子がオルゴールの上で面白おかしく踊り出します。音楽は美しく流れ、子供たちの喜びの中に溶けこんでまいります。もう子供たちは有頂天でついに、つま先をたてて踊り出してしまいました。お友だちも先生も、ゆすぶりを止めた幸子ちゃんを大好きになりました。

人々は再び彼女を「動き虫」と呼ぶのを忘れ、幸子ちゃんは皆んなに可愛がられました。幸子ちゃんのゆすぶりは、オルゴールとあわせて踊るダンスへと変化したのです。

SUNDAY SCHOOL

日曜学校ガイド

—9月用—

朝十五分間だけ聖典に親しもう

夏の朝は大変気持のよい時間です。信仰と証を強めるために、まただらだらしがちな暑い一日への心の準備として朝十五分早く起きて、教会の標準聖典に親しもうではありませんか？

会長会の方へ

私が現在、仕事をしている会社は戦後十人近くの技術者が集まって作った小さな会社でしたが、種々の試練を経て、今では四千人の従業員をもつ一流会社にまで発展しました。その発展率は業界第一で、一株五十円の額面の株が千円を越して証券界をにぎわし、週刊誌などにも書かれました。どうしてこんなに伸びたのでしょうか？

私は会社の中の者として経営者の考え方をじかに聞き、その理由を知りました。それは他の会社がまだ手をつけていない未解決な事柄を研究して、それを次々に製品化していくという開拓者のごとき精神を実行しているからであると。かってヒットラーが「日本の文明は月の光のようなものだ」と言いましたが、それは月が光っているのは自分の熱のためではなく、太陽の光の反射のためであるように、日本の文明も他の欧米の文明をまねして

作られたものであるという大変きつい言葉です。我々日本人にとって全くぶじょくな言葉ですが、歴史と現実の社会を考えるとそれは間違っていないとしみじみと悲しくなってきました。近ごろ欧米諸国で（前もそうでしたが）日本人の技術者の工場見学を断わるのが沢山あるという事実は「まねをする日本人」という過去の経験より起る事柄でしょう。

一寸脱線いたしましたが、私たち日本人はけっして真似だけをする国民ではないということを自分の会社の独自の経営方針をみながら確信をもつことができました。それではどのようにしてそれが行われるのでしょうか。勿論社長などの経営者が先見の目をもっているのだとは思いますが、最も大きいのは役員会、部課長会、係長会などが度々開かれ、そこで新しいアイデア、会社内の問題がどしどし議題にされ討論されるためではないかと思っております。ここで私は自分の会社の宣伝をするためにこんなことを書いたのではありません。

あなた方、会長会のあり方に一つの指針をあたえるものではないかということです。よく日曜学校の会長はMIAと違って、おきまりのプログラムを作ってそれを司会するだけの名誉職位にしか思っていない兄弟に出会うことがありますが、これほど失望を感じることはありません。どんな支部でも、そこには改善すべき問題があり、それを討論し、日曜学校をより進歩させるためにこそあなたがたが選ばれたからです。プログラムを作るために役員会があるのではありません。二分半の話手、開会、閉会の祈りは第一副会長。歌は第二副会長が相談して既に決めてあるはずで、役員会はただそれをチェックするだけにして、主に次のような事柄を検討して頂きたいのです。

(1)出席者の状況。これはあなたがたへの採点に値するものです。先月に較べてどうか。特に少くなったクラスはどこか。その原因及び対策などいろいろと討論すること。

(2)役員たちの責任について。今までやってきたこと、今からやろうとすること。考えたことなどの討論。

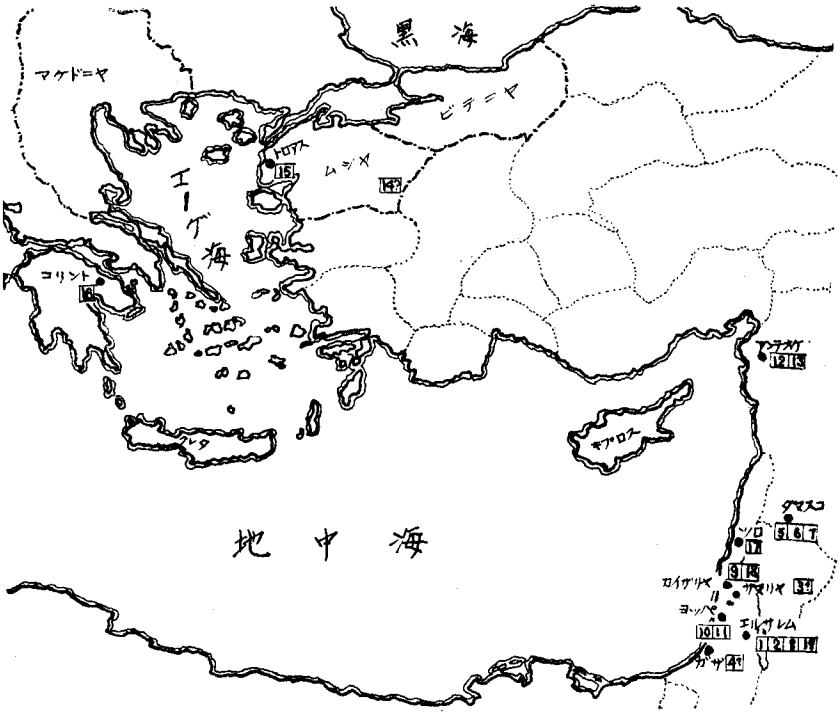
(3)各クラスのレッスンの状態はどうであるか。クラスの雰囲気、内容、遅れていないかどうか。注意することがないかどうかなどの討論。

(4)特別プログラム（母の日、クリスマス等）、及び日曜学校主催のファイア・サイドなどの作成。

(5)地方部、伝道本部指導者の提案の検討。それを最も効果的に日曜学校の中に盛り込むにはどうしたら良いか（支部によって違う）またその実施がいかなる結果をもたらしているかなどの検討。

(6)その他日曜学校をより進歩させるための問題—遅刻者をなくすためには？ 始めて来た人、求道者への配慮はどうなっているか？ 不活潑な会員をいかにして訪問するか？ 礼拝堂、クラスなどきちんと清潔に整頓されているかどうか？ などなど—の検討

このような重大なことを話合う役員会は毎月最低二回は必要です。また役員会がきまったことはすぐ役員教師会で発表して連絡がよくとれるようにしてください。大変忙しく、また労力を費やしますが、日曜学校に出席したすべての人々が心から「来て本当によかった。来週も是非出席したい」と言わせるように努力するのはとても楽しい、またやり甲斐のあることではないでしょうか？ いわんやそれによって神の王国の建設に参加しているという大きな喜びをもつことができるということは……またそれによって皆さま自身の株価を高めることもできるというものです。



――教材として――

「啓示」

天からの交通によって神のみこころを明らかにするというこの啓示はいつの時代にも必要なもので、これがあるというのは神の玉国が存在するという大きな証拠です。啓示を受けるには神、あるいは主御自身の声、天使、御霊、示現、夢などの数多くの方法がありますが、その最もよい例はイエスの弟子たちにあたえられた啓示です。では使徒行伝をひもときながら、どのようなとき、どのようにして啓示があたえられたか一諸に勉強していきましょう。

次頁に詳しいことが書かれてありますが、特に大切なことは次の事柄でしょう。

＊ステパノに神と御子が現われたこと

＊パウロは始め反キリスト主義者としてクリスチャンたちを迫害しておったが、劇的な事件を通してすばらしい伝道者となったこと

＊異邦人コルネリオに御霊が宿ったこと

（例外）

＊イエスの福音が異邦人にも広く宣べ伝えるよう不思議な夢を通してペテロに啓示があたえられたこと

キリスト時代の啓示

地図番号	場所	出来事のあらまし	参考聖句 使徒行伝
①	エルサレム	マッテヤがイスカリオテのユダに代って十二使徒になる	1:15～26
②	エルサレム	ステパノ聖霊に満されて天父と御子を拝す	7:55～56
③	サマリヤ	ピリポ、ガザに向うよう天使より命を受ける	8:26
④	エルサレムの南	ピリポ、エチオピヤ人の馬車に並んで行くよう御霊のささやきを聞く	8:29
⑤	ダマスコノ近く	パウロ、救主キリストの声を聞く	9:3～6
⑥	ダマスコ	パウロ、アナニヤがやってくるのを示現によって知る	9:12
⑦	ダマスコ	アナニヤ、パウロの所へ行くよう主より命ぜられる	9:10～16
⑧	エルサレム	パウロ、将来自分が異教徒に福音を宣べ伝える使命が与えられることを示現によって知る	22:17～21
⑨	カイザリヤ	コルネリオ、ペテロを招くよう天使に命ぜられる	10:3～6
⑩	ヨッパ	ペテロ、キリストの福音はイスラエル人だけではなく異邦人にも必要なことを示現よりさとされる	10:9～16
⑪	ヨッパ	ペテロ、コルネリオの所へ行くよう御霊の導きを受ける	11:12
⑫	アンテオケ	アガボ、大ききんが起ることを御霊によって予言する	11:28
⑬	アンテオケ	パウロとバルナバ、聖霊により伝道に召される	13:2
⑭	ムシヤ	パウロ、ビテニヤに進むのを御霊押しとどめる	16:7
⑮	トロアス	パウロ、マケドニヤに行くべきことを示現によって知る	16:9
⑯	コリント	パウロ、コリント人に恐れることなく福音を宣べるよう示現によって命ぜられ、そこで成功することを約束される	18:9～10
⑰	ツロ	パウロ、エルサレムに行かないよう御霊の示しを受ける	21:4
⑱	カイザリヤ	予言者アガボ、パウロの投獄を予言する	21:11
⑲	エルサレム	パウロ、ローマでも主の証をするようキリストより言はれる	23:11

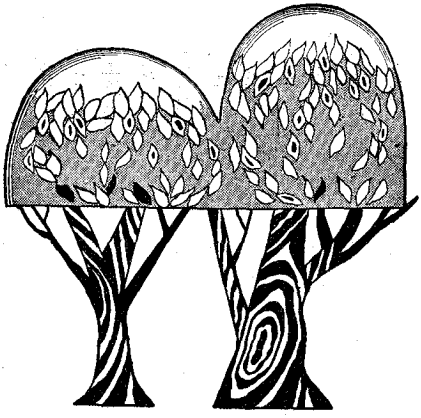
ブランチ ティーチング レッスン●安息日の起原と目的●九月用

安息日の律法は神のおきての中で最も古いものの一つであります。安息日の律法は、神が地球の創造を完成なさって、その働きからお休みになったことを記念するために、アダムとその子孫たちに与えられました。主は人間のためにこの日を祝福してとくに聖い日となさいました。安息日は神聖な目的と神を礼拝することのために、とくにほかの日と区別されています。主なる神さまは、神の僕べであるモーセを通して、イスラエルの人々に根本的な律法として十誡をお授けになったとき、この聖日が大切であることをもう一度強調なさいました。このことがあってからじきに、神は再びこの律法が大切なことをくわしく説明して「ゆえにイスラエルの人々は安息日を覚え、永遠の契約として、代々安息日を守らねばならない」（出エジプト記三十一〇十六・十七）とお言いになりました。それでありますから、安息日を守ることは「永遠」の契約であります。

それならば、人々はなぜこの聖日をあのように無視しているのでありますか。もしも神さまの慈悲がなかったならば、安息日はなかったでありましょう。

もしも人間に勝手にさせておいたなら、とくべつに休みの日をとっておくことは十中八九なかったでありましょう。毎日毎日、休みもせず礼拝もせずに働きつずけることがどんなことか考えてもみてごらんなさい。イエスが「安息日は人のためにあるもので、人が安息日のためにあるのではない」（マタイ伝二〇二十七）とお言いになったのは驚ろくに当りません。言葉を換えて言うと、安息日は人が神さまのみこころを行うように定められた日であって、人が自分のしたいことをきめるために定められた日ではない、ということであります。

イエスが復活をなさってから、安息日は（もと土曜日であったのが）日曜日すなわち一週の最初の日にかわりました。それで、クリスチャンたちは安息日を創造の完成した日として守るばかりでなく、イエスが死のきづなを破って墓から復活をなさったことを記念して守るはずになりました。世の中には、イエスが降臨なさったので十誡は廃棄されてしまったと信じている人々があります。これは本当ではありません。これらの律法は一時止めになったのではなく、強制的の律法が自発的の律法になっただけであります。もともとこの律法についていた刑罰が取り消されたのは本当に幸福なことであります。律法を破って安息日を守らない者は、イスラエルでは死刑に処することができました。もしも今なおこの通り行われたなら、キリスト教国の人口は毎日莫大な数づつ減って行くことでありましょう。引きつずいて安息日を守らない人々は、自分の気まぐれを満足させる利己的な人々であって、教会の会員が誰一人失うことのできないもの、すなわち霊性を失っているのであります。昔イスラエルでは安息日の律法を破った者が死刑に処せられましたが、今引きつずいて安息日を守らない人々は霊の死を受けているのであります。私たちは、安息日を守らないという世の人々のやり方に従うことはできません。安息日を守らないと、この聖なる日を無視する習慣が抜けなくなるのであります。安息日を守ることは、主が私たちに守ることとを期待しておいでになる「永遠」の契約であることを忘れないようにしましょう。それは約束のついた誡命であって、安息日を守らないと、安息日を無視する人々にはついに悲しみと失望がやってくるにちがいありません。



MIA リーダー

9月用

むすび

「聖徒の道」にMIAリーダーの欄が設けられてから数回に亘り拙筆を執ってきましたが今月で一九六一年のMIA年度も終り、さわやかな秋の訪れと共に新年度に入る訳であるので、来たるべき年度に具え、又今迄のMIAスケジュールを鑑みて考慮されるべき幾つかの問題に就いて述べてみたいと思う。

第一に各支部で開かれているMIAが正しいMIAの標準に則って行われているかどうか、と云う問題である。アメリカ合衆国で採用されている内容の全てが必らずしも日本に於いてそのままの形式では適合するとは云えないが、そうかと云ってはめを踏み外しては困るし、紋切型でも好ましくない。幸い紙面を通して皆さんに紹介する機会が与えられたのでせんえつにも「MIAの標準」に就いて筆を執ってきましたが、雑然としてまとまりが無く必要事項を網羅出来なかったが遵守して頂き度いと思います。新年度からは再び詳細に説明する積りです。尚私達の要望としてはMIA役員の更迭が激しいと質的に低下するので、MIAの重要性の上からも役員の任期は最低六ヶ月以上にして頂き度いので各支部長は能く念頭に入れて選任して下さい。

第二はMIA活動の盛衰が地域的に可成り偏っているので総括的な指導では大きな効果は余り期待出来ない。実際私達が直接会えるのは東中央地方部の人達だけでその大部分は京浜地区に限られている。地方の小さな支部のMIAが如何に運営されているのか皆目解らない。私達もその対策をしっかりたてていき度いと思うが各支部の役員の方々も若し問題が起こり支部内で解決出来ない時には直接手紙等で知らせて欲しい。支部長が宣教師である支部では支部長とMIA会長の間で意志の疎通が起こり勝ちであり、しっくりいかない場合もあるが納得のいく様に話し合って欲しい。神権者の少ない支部では外人宣教師がMIA役員を代行しているが、その場合此の欄の伝達事項は姉妹達でも宣しいから彼らに説明してやって下さい。私達も目下検討中です。

第三に支部同志の交流である。私達の住む京浜地区五支部では平均月一回、大会やMIA主催のスポーツやレクリエーションの催し物の際に会員同志は交流し、又毎月一度の指導者会でも活潑に交歓し合うが、地方でもブロック毎に定期的に交流して欲しい。アメリ

カのステーキ部でも気候の恵まれた時期を選んで数日、合同生活を楽しみ新しい知己を見出すと共に大きな証詞を得ている。日本では未だ一度も行われていなかったが、伝道部長の意向で来年度から計画に含み度いと思う。今迄は支部単位で夏季にキャンピング等の形で行われていたが、四～五支部程度が集まって充実した内容を持つ合同の集いが開かれたらどんなにか素晴しい事だろう。

其の他MIA活動に必要な設備面でも絶対量が不足している現状なので資金の獲得に頭を痛めている皆さんには誠に御苦労ですが御国の建設の為に頑張って下さい。私達も及ばず乍ら皆さんの協力を得て働き度いと思います。皆さんの上に主の豊かな御恵みと御護りがありますように、アーメン。　佐藤記

新年度予定表の発表とレッスンの紹介

八月三十一日の「年度末パーティ」の時にこれを皆さんに発表して下さい。下記の表は一般活動と合同活動のみの計画カレンダーです。何か面白い趣向で発表すると、亦九月からのMIAにも続けて出席したいと思う様になることでしょう。例えばテレビの番組お知らせの時間の様な形を真似てもいいですね。唯一人の人が一気に予定表を読みあげてしまったのでは内容もわからず興味もわきませんね。何人かの人で内容を一寸だけ披露するのも面白いと思います。

今年度の活動の中に新しく合同活動と言うのが含まれました。これは今迄の一般活動と異り、開会行事の後、年令別クラスは平常通

予定表

九月七日	一般活動	オープニング・ナイト
二十八日	合同活動	「枯葉のたわむれ」ダンス
十月二十六日	一般活動	ハロウィーン・パーティー
十一月九日	一般活動	演説祭
十二月七日	合同活動	スポーツ
二十一日	一般活動	クリスマス・パーティー
一月四日	合同活動	新年会
二十五日	一般活動	「クワルテットの集い」音楽
二月八日	一般活動	ヴァレンタイン・ダンス
三月八日	一般活動	演劇祭
二十二日	合同活動	ゲームで遊ぼう
四月十二日	一般活動	タレント・ナイト
五月二十四日	一般活動	ゴールド・アンド・グリーン・ボール
六月二十一日	合同活動	音楽と寸劇
七月二十六日	一般活動	スポーツの夕べ
八月三十日	一般活動	約束しましょう

り行われ、其の後の活動の時間のみ合同で行うわけです。即ちいつもの様に自分の所属しているグループに別れないで皆いっしょに活動するわけです。内容は、ダンス・スポーツ・新年会・ゲーム・音楽と寸劇等で特別に活動グループに分けず皆で其の責任を持って活動するわけです。通常スピーチのクラスの人であっても寸劇をやることが出来るし、音楽のクラスの人であってもゲームの責任者になって良いわけです。くわしい説明は、毎号の指導要欄にのせます。

次に新年度のレッスンを紹介しましょう。MメンとグリーナーのテキストはローエルL・ベニオン著「生活の目標」です。（一昨年使用のMメン・グリーナーの手引一九五九——一九六〇の中にのって居ります）多数の方々の要望に答えて再び使用することに決定致しました。今年九月に改定版が伝道本部より出版されます。各支部で部数をまとめて支部長会に申し出て下さい。「生活の目標」は私達の現実の生活に立脚した信仰のあり方を教えている本で真近かにある問題を取りあげているので若い人々の人生の指針ともなり大いに参考になります。一読の価値があり、亦同じ世代の人々と実社会にある問題を討議する色々の問題を提案して居ります。私達はレッスンの時間を通して、此の真の教え、キリストの精神がどの様に社会に実践されるかを学びましょう。エンサインーローレルのテキストは「生きる」です。前伝道部補助組織指導者のラッシィング長老がとっても素晴しい本であると強調していらっしゃっただけに私も翻訳の完成を心待ちにして居ります。

では次に新年度の読書課程を紹介します。モルモン経の第三ニーファイです。ヒラマン書に引き続きモルモン経の中でも素晴しい所で、救い主降誕のしるしや、ニーファイの民が栄えるが富と高慢と階級差別の為に不和を生じ教会の分裂を見るあたりは私達に強い教えを伝える。亦キリストの十字架の予言があり、神の強い声があり、復活したイエスが現われたもうて一人一人に傷痕にふれるところなど私達に大きな感激と真理とを伝える。第三ニーファイ第十三章三十三節は真の信仰心を私達に教えてくれます。即ち「まず神の王国と神の義とを追い求めよ。然すれば、なくてならぬものはことごとく汝に賜わるべし。汝ら明日のことを思いわずらうなかれ。明日のことは明日になりてこれを思え。一日の長さは、一日の苦労のみにて充分なり」

「新しい年度を迎えるにあたって」

私達のMIAも亦此の九月から新しい年度を迎えるわけです。役員各位は次のことを反省し新しいプログラムに大いなる抱負を持ちましょう。

一、我々は興味あるMIAを開いていただろうか。

二、我々はMIAによって証詞を強めただろうか。

三、我々は誠実に其の任を果しただろうか

四、我々は何人の友人にMIAを紹介しただろうか。

五、我々はMIAの標準を遵守しただろうか。

六、我々は活潑的にMIAに参加しただろうか。

七、我々の才能は一年前よりいくらかでも進歩しただろうか。

八、我々はMIAによって何人の新しい友人を得ただろうか。

右に列挙した八つの事柄はいずれも大切なことで反省と共に新しいMIA年度に於て如何なる対策を立てるか、大いに役員同志検討する余地があると思います。

私達伝道部の役員は各地の要望に答えて地方の支部の方々とお目にかかり、共に色々の問題について話し合って行きたいと思っておりますが色々な面で制約を受けますのでなかなか実現出来ません。また伝道部にMIAの為の予算は全然ありませんので何とかこれを作り出したいと思って居ります。アメリカに於ける、ワード及びステーキ部のMIA予算はどの様に捻出されているか調べて、此の伝道部に於てどの様に適応すべきかを今検討中です。これからも種々な面で本伝道部MIA役員の方々の御協力を心よりお願い致します。

亦沖縄、韓国の各支部のMIA役員の方々とは、お目にかかる機会もなく残念ですが、いつかお逢いしたいと心より希望して居ります。国が違うことによって持っている問題も異なるかもしれません。しかし私達の出来ますことでしたら喜こんでお手伝い致したいと思って居ります。御質問は、いつでもお知らせ下さい。（住所　東京都練馬区春日町一ノ二六一〇　佐藤襄二　栄子）

九月七日「オープニング・ナイト」

MIAの全役員は此のプログラムの準備と開催に対し連帯責任を有する。私達は亦新しい年を迎えて、過去の古いMIA年度の中で表彰したいと思う人が幾人か居るかもしれない。但し今年度からは個人賞がありません。では、どんな人達が表彰を受けるかと言うとMメン・グリーナーに於て三年間の種々な資格と標準を取った方々です。此の資格については「Mメン・グリーナーの手引一九五九―一九六〇」を参考にして下さい。多分今年度は表彰を受ける人が各支部に於てはいらっしゃらないと思います。何故なら本伝道部に於て新しい方法がとられてから未だ三年に満たないからです。但し支部内にあって八月迄に二十九才になってしまう人のみ過去一年間だけの記録をさかのぼることが出来ます。資格の取り方、手続きの方法については前述の手引を良く読んで正しい方法で手続きを取って下さい。（尚資格の取り方、手続き上不可解な点は佐藤栄子姉妹迄御連絡下さい。）亦ローレルの真珠をつける会と言うのがありますが、本伝道部に於て一九六〇―六一年度は適応されません。そうしますと表彰される人が支部内にいらっしゃらないのではないかと思います。唯次の数は人達に感謝の表彰をすることが出来ます。即ちダンスのコンテストに参加して下さった人、スポーツの競技会や地方部大会に於て色々な才能を発揮して下さった人達、此等の方々も皆さんの前に紹介して感謝の拍手を送りましょう。

此の日の集会の目的は二つある。過去一年のMIAにあって活潑的にプログラムに参加した人々を紹介することと他の人々が今年こそMIAの活動に積極的に参加しようと言う気持を起こさせることである。この催しに対する計画は一月前に立てられているべきで来賓の方々を招待して御話を伺うことも興味を一段と添えることになるであろう。地方部長会の方々評議員の方々MIA伝道部及び地方部指導者等を御招きしましょう。新年度最初のMIAであるから特に新しい求道者の方々にていねいに〝MIA〟と言う会について説明し、興味を持つ様なプログラムを計画しましょう。

九月二十八日「枯葉のたわむれ」

此の時間は合同活動ですから、平常通りの開会行事のあと、年令別のクラスの時間があって其の後の活動の時間を全員合同で行なうわけです。初秋のさわやかな季節にダンスの夜も亦楽しいことでしょう。特に「枯葉のたわむれ」と言うテーマがついておりますので、それを頭に於て腕をふるって計画して下さい

末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粋

ジョセフ・フィールディング・スミス著

20

第二部　時満ちたる神権時代の開始

第十三章　教会公けの伝道開始

（千八百三十年）

二、コーレスヴィルに於けるジョセフ・スミスの伝道（つずき）。彼（ニューエル）は人気のない所でひざまずき声を出して祈りを捧げようとしたが、どうしても口が開かなかった。彼は祈ることができなかった。そして不安になり始め、肉体も精神も苦しくなった。彼が家へ帰ってきた時に妻は彼の様子が変なのを見て非常に驚ろいた。彼が妻にジョセフを迎えにやってくれとたのんだので、妻はその通りジョセフを迎えにやった。ジョセフが来てみるとニューエルは非常に苦しんでいた。彼の顔はゆがみ、彼の手足はおそろしい形にひん曲っていた。やがて彼はふらふらっと起き上って部屋の中をのたうち廻った。この騒ぎで隣り近所の人々が大勢家へ寄ってきて彼の変な病気をまのあたりに見た。

三、最初の奇蹟。　ジョセフはやや困難を感じたが、ニューエルの手をとらえることに成功した。すると彼は非常な熱心さでどうか悪魔を彼から追い出してくれとジョセフにねがった。彼は悪魔にとりつかれていることを知っていたからである。そこで予言者は「君が私にできると知っているなら、必らずその通りになる」と言った。それからほとんど無意識に彼はイエス・キリストの御名によって悪魔を責め、出て行けと命じた。すると直ちにニューエルは口をきいて、悪魔が彼から出て消え失せてしまうの見たと言

った。これは、この神権の時代に行われた最初の奇蹟であった。悪魔が出て行くや否やニューエルは平常通りに戻り、体のねじ曲ることは止み「主のみたま」は彼の目を開いて光栄に満ちた天の顕われを見せたもうた。その場に居合せた者たちは悪魔が追いはらわれるのを目にし、「主のみたま」の証をする人を見たとき非常に驚いた。そこにいた人々のほとんどすべては後に教会の会員となった。

四、教会最初の大会。 この出来事があってから間もなくジョセフはフェイヤットへ帰った。ニューエル・ナイトはジョセフについて来て、五月の最後の週間にデビッド・ホイットマーからバプテスマを受けた。六月の九日には教会最初の大会がフェイヤットで開催された。当時教会員の数は二十七名であったが、そのほかに多くの人々がこの集会に出席した。中には好意をもっていた者もあり、また信じた者もあった。この大会では聖餐式が執り行われ、最近にバプテスマを受けた人々が会員として確認された。そのほかの人々は神権を受けるために会員の支持を得、それから按手聖任された。大会開始当時の教会役員はジョセフ・スミス、オリヴァ・カウドリ、デビッド・ホイットマー、ピーター・ホイットマーおよびザイバ・ピーターソンで、これらは各々教会の長老たる職をもっていた。この大会中にサミュエル・エッチ・スミスが長老の職に按手聖任され、ジョセフ・スミス(初代)、ハイラム・スミスおよびマーテン・ハリスが祭司に、ハイラム・ページとクリスチャン・ホイットマーとが教師に按手聖任された。そこで、この大会を閉ぢるに当って教会には按手聖任された七人の長老と三人の祭司と二人の教師とがあった。オリヴァ・カウドリは次の大会まで教会の記録と集会の議事録をつけるように命ぜられた。聖霊は豊かに彼らに注がれ、教会を作るこの小さな隊に属する者の多くは予言の「みたま」を授かった。一方そのほかの者は示現を見、天から著しい顕われを受けた。ニューエル・ナイトは福音を宣べ伝えることと教会を組織することによってやがて完成するにちがいない偉大な業を示現の中に見た。彼は贖い主にお目にかかり、彼が神の御前に入ることを許されていつまでも神の王国に住むにちがいないという固い言葉をたまわった。

「昔の聖い使徒たちが執り行ったと全く同じ種類のことにわれわれがたずさわっているのを知ること、このような行動が重要であり、また厳粛である事実を悟ること、また神権の権能にふさわしい光栄ある顕われ、聖霊の賜と祝福、およびわれらの主イエス・キリストの永遠の福音に従う者に与えられる慈悲深い神の仁慈と懇ろとをわれらに具わる感覚で目撃し感じとることは、共に手をたずさえて熱狂的の歓喜の感覚をわれらの胸中に起し、また真理のために新鮮な熱意と精力とをわれらに吹きこむのである」とジョセフ・スミスは言った。

この大会を閉ぢるに当って、前に述べたほかに十一人の改宗者がデビット・ホイットマーによってセネカ湖でバプテスマを施こされた。ここはこのほかの大ていのバプテスマが行われたところである。この時教会に加入した人々の名前は次の通りであった。

すなわち、ジョン・プーアマン、ジョン・ジョリー、ジュリア・アン・ジョリー、ハリエット・ジョリー、ジェルーシャ・スミス（ハイラム・スミスの妻）、ウイリヤム・スミス、カザリン・スミス、ドン・カルロス・スミス、ピーター・ロックウエル、カロリン・ロックウエル、およびエレクタ・ロックウエル等であった。

五、再びコーレスヴィルを訪れる。　この大会が終ると間もなく、ジョセフ・スミスは再びコーレスヴィルを訪れた。この時オリヴァ・カウドリ、ジョン・ホイットマーおよびデビッド・ホイットマーが同行したが、これらの人々は大勢の者が熱心に彼らの来るのを待ってバプテスマを受けたがっているのを知った。安息日に集会を開くことに定め、月曜日にバプテスマを執り行う準備として、日曜日に一つの流れをせき止めてダムをつくった。ところが、夜の中に悪意を以てそのダムをこわしてあった。後でわかったことであるが、これは他の宗派の牧師たちにそそのかされた暴徒の群がやったことであった。月曜日には予期された通りに集りが開かれ、オリヴァ・カウドリが主として話をしたが、他の者もまた話をした。福音の第一原則が述べられ、モルモン経が神の告げたもう言葉であるという証詞が述べられた。この集りで、前から暴徒の群をつくる助けをしていた多数の者が閉会まぎわにこの集りの効果を台なしにしようと力を尽したが成功しなかった。反対をする者たちはきわめて烈しい憎悪を表わした。ニューエル・ナイトの妻の妹は情け深い気質であるというのでひどい目に逢わされた。彼女の父の家は、彼女の泊っていた姉の家からやや離れたところにあったが、シャラーという牧師は彼女の意志に反して無理やり彼女をそこへ追い返した。長老教会の牧師であるという仮面をかぶっていたこの男は、彼女の父親から権利を委任されてきて彼女を引きずって行った。しかし、彼の骨折りも全部水の泡になった、というのは彼女もまたバプテスマを受けてしまったからである。

月曜日の朝早く、こわされたダムはもとの通りに築かれ、十三人の者がオリヴァ・カウドリにバプテスマを施こされた。これらの人々はジョセフ・スミスの妻エマ、ヘゼキア・ペック夫妻、ジョセフ・ナイト（初代）夫妻、ウイリヤム・ストリンガム夫妻、ジョセフ・ナイト（二代目）、アロン・カルヴァ夫妻、リーヴァイ・ヘール、ポリイ・ナイトおよびジュリヤ・ストリンガムであった。

六、ジョセフ・スミス捕えられる。　これらの人々のバプテスマが終らぬうちに暴徒の群が集り始めた。暴徒の群

はジョセフ・ナイト（初代）の家をとりかこんで乱暴を働く準備をしたが、主の恵みによって聖徒らは事なきを得た。しかし、多くの聖徒はこの時侮辱や脅迫を加えられた。その夜、同日の朝バプテスマを受けた人々が確認の式に出るために集会が催された。その人々が定刻に集ったとき、彼らは一人の警官が現われたのを見てことごとく驚ろいた。この警官は逮捕状によってジョセフを捕えた。その理由はジョセフが「モルモン経を説いて国中を騒がす公安妨害犯人」であるというのであった。

この警官はジョセフに向い、実のところ自分があなたを捕えたのは、あなたを暴徒の手にわたすためであって、いま待ち伏せをしていたのであった。しかし、今になってみると、あなたは私が信じさせられていたような人ではないことが解ったから暴徒の手から救ってあげる、と胸の中をうち明けて言つた。

ジョセフが警官と連れ立って馬車に乗って行くと、彼らはジョセフ・ナイトの家から程遠くないところで暴徒の群と出くわした。暴徒たちはかねて打ち合わせておいた合図がこの警官から出るのを待っていたのであった。ところが警官は一鞭馬腹に加えるや暴徒を後にして走り去った。暴徒らは全力を挙げてこれを追いかけた。逃走の途中、馬車の輪が一つはずれた。その修理がまだできぬ間に暴徒たちの姿が再び見えてきた。しかし、輪の修理も首尾よく間に合い、ジョセフらは勢いを新たにして逃げおおせることができた。

この警官はジョセフをシェナンゴ郡サウス・ベインブリッヂに伴ない、ジョセフを一軒の宿屋へ泊らせて終夜見張りをつづけた。翌日、その訴因を調べるために法延が開かれた。これまで人々の間にうそ偽わりが勝手に流布されていたので町中は興奮にわき立った。ジョセフ・ナイト（初代）がジェームス・ダビッドソンおよびジョン・レイドという法律に明るい二人の立派な農業経営家の骨折りを引き受け、予言者の弁護をするため二人を伴ってサウス・ベインブリッヂへ向った。

七、サウス・ベインブリッヂの裁判。　ジョセフ・スミスのは敵はジョセフに不利な証言をする証人たちを求めて郡中をあさりまわった。この事件を担当した治安判事ジョセフ・チェンバレンは公平な心を持ち、正義を愛する士であった。多くの証人が証言をしたが、中でもジョサイヤ・ストール、ジョナサン・トムソンおよびストール氏の二人の娘等の人々はみなジョセフの人格が立派であるという証明をした。そのほかの証言はみなうそであるということが立証された。この裁判は朝の十時から真夜中までつづき、結局「無罪」の決定が与えられた。

八、再び捕えられる。　ジョセフはこの法延から放免されるや否や、約二十キロメートルあまり離れたブルーム郡

から出された逮捕状にもとずいて再び捕えられた。ジョセフは終日法廷に居て何の栄養もとっていなかったのに、ジョセフを捕えにきた警官は彼が食事をとるのも許さずその夜彼を強制的に出発させた。警官はジョセフをコーレスヴィルへつれて行って一軒の宿屋に泊らせた。それから多数の乱暴者を呼び入れ、このやじ馬どもの助力を得て、自分の捕えてきたジョセフを辱かしめ始めた。ジョセフにつばを吐きかけ、ジョセフを指さして「予言せよ、予言せよ」と悪魔のような合唱をして叫んだ。

ここはジョセフの自宅に近かったので、ジョセフは警官に向いその夜の明けるまで自宅に泊るためにつれて行ってもらいたいと頼んだが聞かれなかった。そこで、何か食べるものを頼んだところ、固くなったパン切れと水とが少々与えられた。

九、コーレスヴィルの裁判。 その翌る日、三人の裁判官が立ち会って裁判が始まった。この事件を起訴する側には最も敏腕な助けが得られていたのにひきかえ、弁護側は今度もレイド氏とダビッドソン氏の二人であった。多数の証人が呼ばれて、その人々は虚偽の矛盾する証言を行なった。ニューエル・ナイトが証人席に立たされ、弁護士団の一人シーモアという者から質問を受けた。彼はニューエル・ナイトの体から悪魔が追い出されたことに関しひやかしの態度で質問をしたが、ニューエル・ナイトの証言によって起訴側の企ては失敗に帰した。その証言が終ると、法廷は前日の朝以来ひきつづき開廷していて、もう午後の二時近くなっていたけれども約三十分間協議をした。囚われ人のジョセフは法廷につれ出され裁判長から「スミス氏、われわれは貴君の事件をつまびらかに考究し証言を吟味したが、何ら有罪とするに足らないことを発見する。従って、貴君を放免する」と言い渡された。

そうすると裁判官連はジョセフをきびしく非難し始めた、それは「裁判中に証言を行った多数の証人によってジョセフの品格をおとすような何事かが証言されたというのではなくて、全くジョセフの持っている宗教上の意見が異っているがために罪もない人に神を汚す迫害を加えた人面獣心の悪者どもの意を迎えんがためだけであった」とレイド氏は述べている。

十、レイド氏の声明。 それから数年の後、レイド氏はノーヴーを訪れて一場の演説を行った際、その中でこの裁判に触れて次のように述べた。

「しかしながら、ああ。かの悪魔はその敗北（第一回の裁判）に不満足であったが故に、彼と同様な男をあおり立てた。この男は人間の仲間というよりはむしろ地獄の鬼の中に住んだ方がふさわしい男であったが、コーレスヴィルへ行って別の逮捕状をとり、もう一度裁判を受けさせるためにブルーム郡へジョセフをつれて行った。彼らは今度こ

そ地獄かテキサスか、どちらでもかまわない、確かにジョセフを送りこむことができると思った。それでジョセフは裁判所から放たれて三十分後に再び捕われ、今一度裁判にかけられるためにコーレスヴィルへ向っているのであった

私はこの悪意ある迫害者たちからジョセフを守り、彼らがジョセフに対して提出した不正な告訴からジョセフを青天白日の身とするため、ジョセフの友人たちからまた働いてくれとたのまれた。私はその時二日間とまる二晩訴訟事件にかかりきりで、疲労と睡眠不足のためにほとんど参っていたから、あらゆる道理をつくしてことわりを申しあげた。しかしながら、私はジョセフに対する迫害がきわめて大きいのを見た。司会者の方々よ。さてここで、それは普通でないと思えようとも、私に言わせてもらいたい。ナイト氏が私にぜひ行ってもらいたいと乞いねがっている時に、私はぜひ行って彼の弁護をしなくてはいけない、彼は「主に油そそがれし者」であるからである、という特別な感銘もしくは考えが私の胸を打った。私はそれがどういう意味か解らなかったが、私は行かなくてはいけない、そして「主に油そそがれし者」を青天白日の身にしなくてはいけないと考えた。

私は行きましょうと言った。私は山を移すことのできた使徒たちが持っていたと同じほどの信仰を持って出発した。私と一しょに行ったファーザー・ナイトはダビデの町まで神の置(はこ)に従って行った老族長のようであった。……私はその晩ジョセフを無傷で三百人の人々の中から立ち去らせた。しかし、私は人間以上の何か高い力で助けられたということをよく気づいている。というのは、その場のことをふり返ってみると、私はどうして彼を首尾よく立ち去らせることができたかわからないからである。私は誇りにする気はさらさらない。それは神の御業であってわれわれの目に驚嘆すべきことであった」（タイムス・エンド・シーズンズ誌五〇五四九――五五三参照）。

九月練習の讃美歌

第一六〇番「主の方には」

新しい讃美歌集に変りましたので、歌になれる意味において、もうすでに知っている歌を選びました。教会以外の所でこのメロディーはお聞きになっていると思いますが、これは讃美歌ですから敬けんな気持を失わないよう注意してください、歌がゆっくりにならないよう注意してください一段目の四・五小節は符点音符ではありませんから注意してください。**来月の歌は八十八番「日は暮れ」**。

初等日曜学校練習の讃美歌

第一五番「なぐさめのイエスさま」

子供たちにはすこしむずかしい節廻しかもしれませんが先生方はしっかり憶えて子供たちにくり返し教えてください。音程をはっきりさせることが大切です。

来月の歌は二十五番「幸あれ」です。

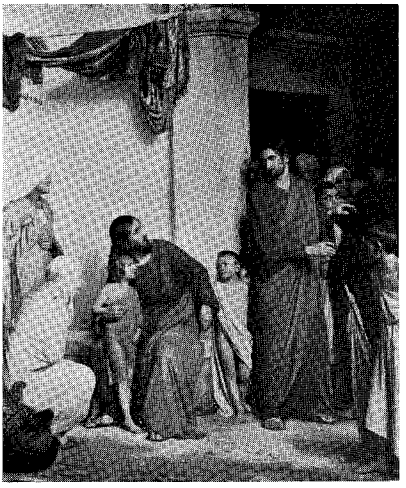
支部所在地

阿倍野　大阪市阿倍野区阪南町中一ノ三八
旭川　旭川市八条五丁目
福岡　福岡市東薬院二ノ四〇
群馬　高崎市並榎町二七五
広島　広島市古田町古江四〇〇ノ三
金沢　金沢市成瀬町一一ノ四　野田方
甲府　甲府市山田町六三
松本　松本市沢村町一六〇四
室蘭　室蘭市幸町八九
名古屋　名古屋市昭和区北山町三ノ四一
新潟　新潟市中大畑町五五七　金井方
電(二一八六六一)
西ノ宮　兵庫県西ノ宮市仁川町四ノ五四
岡町　大阪府豊中市岡町北二ノ一八
岡山　岡山市弓野町六一
小樽　小樽市富岡町一ノ三五
三ノ宮　神戸市灘区篠原本町四ノ三五
電(八二一六〇二)
札幌　札幌市北二条西二四丁目
仙台　仙台市光禅寺通り二八
電(五一〇八九七)
東京中央　東京都渋谷区八幡通一ノ三四
電(四〇八一三三〇七)
東京北　東京都豊島区千川町一ノ二三ノ七
電(九五一一六〇一四)
東京南　東京都大田区南千束町二四九
電(七八二一六一三二)
東京西　東京都港区青山北町六ノ三四
電(二一七五八〇)
山形　山形市八日町五八〇
柳井　山口県柳井市今市三九一
横浜　横浜市港北区篠原町二九
電(四九一八七七二)
普天間　沖縄宜野湾村野嵩区三二八
那覇　沖縄那覇市松尾区一三九

編集後記

「聖徒の道」編集部の事務所は八月から東京都港区青山北町六丁目三十四番地へ移転しましたから、郵便物はそこへ届くようにお出し下さい。新しい事務所は明治神宮表参道に面する教会所有の敷地の中に在り、ただ今東京西支部が活動している建物のすぐとなりであります。人は暑い暑いと言っていますが、もう「立秋」が目の前に来ています。「ルームクーラー」とか「エヤコンディション」とかいう文明の利器も良いでしょうが、何だか自然の調和を乱すような気がします。「秋来ぬと目にはさやかに見えねども、風の音にぞ驚ろかれぬる」という「みそひともじ」の中に含まれている「もののあわれ」の境地は「ルームクーラー」のひやっこい風の中にはないようです。ともあれ、新聞にも雑誌にも「九月危機」が書き立てられている今、「ルームクーラー」を使わなくても、人は何となく背すじにひやっこい風を感じて居ります。さてどうなりましょうとも、福音によって神の御国の真のすがたを教えられた私たちは、教えのために努力するだけであります。

（佐藤龍）



8月号表紙—イエス・キリスト幼児を祝福し給ふ

月刊「聖徒の道」第五巻第八号
一九六一年八月一日発行
実価　一カ年　六〇〇円
半カ年　三〇〇円
一　部　五十円
編集兼発行人　ポール・C・アンドラス
発行所　東京都港区麻布広尾町十四
末日聖徒イエス・キリスト教会
北部極東伝道部

聖徒の道
一九五八年二月十七日 第三種郵便物認可 第五巻第八号
振替口座東京七六二二六番
発行人 ポール・C・アンドラス
編集人
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会 北部極東伝道部
東京都港区麻布広尾町十四

内案書図

教義と聖約 上質革製合本……一一〇〇円
高価なる真珠 合本……三〇〇円
モルモン経
教義と聖約
高価なる真珠
モルモン経（新訳）……二〇〇円
信仰箇条の研究……三三〇円
モルモンとは……一〇〇円
完成への道……二〇〇円
初等協会教科書……一五〇円
総合聖句の手引……一五〇円
日本系図探究要覧……一〇〇円
古代アメリカの生活……一〇〇円
旧約聖書物語……一五〇円
家督権の祝福……一〇〇円
扶助協会手引……五〇円

日曜学校用

宗教と生活 II……一五〇円
よきおとづれ……一〇〇円
聖書物語……一五〇円
福音の実践……一五〇円
聖典中の指導者……一五〇円

MIA用

役員と指導書の手引……一〇〇円
モルモン経研究ガイド……一〇〇円
MIA手引（付録）……五〇円
演劇指導者基礎知識と脚本集……七五円
演説が上手になる法……一五〇円
社交ダンス必携……一六〇円
新しいフォークダンス……五〇円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌（新版）……四〇〇円
子等は歌う……一〇〇円
レクリエーション歌集……四〇〇円

……註文は各支部長へ……